SONY

3-217-209-**02** (1)

デジタルHDビデオカセットレコーダー

取扱説明書

GV-HD700

⚠警告 **電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

→81～83ページも
あわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、電源コードに傷がないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

本機やACアダプター、バッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐにソニーの相談窓口へご相談ください。

万一、異常が起きたら

**変な音・においがしたら
煙が出たら**
➡
1. **電源を切る**
2. **電池をはずす**
3. **ソニーの相談窓口に連絡する**

裏表紙に**ソニーの相談窓口の連絡先**があります。

⚠危険 万一、電池の液漏れが起きたら

1. **すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。**
2. **液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。**
3. **液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。**
4. **液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。**

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

プラグをコンセントから抜く

指示

電池について

「安全のために」の文中の「電池」とは、バッテリーパックも含みます。

使用前に必ずお読みください

お買い上げいただきありがとうございます。

本機で使えるカセットについて

Mini DV マーク付きミニDVカセットが使えます。カセットメモリーには非対応です（詳しくは71ページ）。

本機で使える“メモリースティック”について

本機では、MEMORY STICK DUO（“メモリースティック デュオ”）、MEMORY STICK PRO DUO（“メモリースティック プロ PRO デュオ”）マーク付きの“メモリースティック デュオ”が使えます（詳しくは72ページ）。

“メモリースティック デュオ”（本機で使用するサイズ）

“メモリースティック”（本機では使用できません）

- “メモリースティック デュオ”以外のメモリーカードは使用できません。
- “メモリースティック PRO”、“メモリースティックPROデュオ”は“メモリースティックPRO”対応機器でのみ使用可能です。
- “メモリースティック デュオ”本体およびメモリースティック デュオ アダプターにラベルなどを貼らないでください。

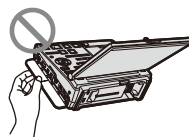
“メモリースティック デュオ”を“メモリースティック”対応機器で使用する場合

必ず“メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れてからお使いください。

メモリースティック デュオ アダプター

故障や破損の原因となるため、特にご注意ください。

- 次の部分をつかんで持たないでください。

バッテリー　液晶パネル

端子カバー

- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。「本機の取り扱いについて」もご覧ください（76ページ）。
- 本機をケーブル類で他機と接続するときは、端子の向きを確認して接続してください。無理に押し込むと端子部の破損、または本機の故障の原因になります。

次のページへつづく➡

メニュー項目および液晶画面についてのご注意

- 灰色で表示されるメニュー項目は、その録画/再生条件では使えません(同時に選べません)。
- 液晶画面は有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えなかったりすることがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。

- 液晶画面を太陽に向けたままにすると故障の原因になります。

言語設定について

- 本書では、操作の説明用として各言語の画面イラストを使用しています。本機をお使いになる前に、必要に応じて本機に表示される言語の設定を変えてください(60ページ)。

録画/録音に際してのご注意

- 事前に試し録画をして、正常に録画/録音されていることを確認してください。
- 万一、ビデオカセットレコーダーや記録メディアなどの不具合により記録や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたがビデオで録画/録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

他機での再生に際してのご注意

HDV規格で記録したテープは、DV規格のビデオカメラやミニDVデッキでは再生できません。
他機で再生する前に本機で再生して、テープの内容を確認することをおすすめします。

本書で使うマークについて

HDV1080i　HDV規格だけで使える機能です。
DV　DV規格だけで使える機能です。
i.LINK　i.LINK接続時に使える機能です。
USB　USB接続時に使える機能です。

本書について

- 画像の例としてスチルカメラによる写真を使っています。
- 本書で使用している画面表示のイラストは、実際に見える表示とは異なって見える場合があります。
- 記録メディアやアクセサリーの仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

目次

次のページへつづく➡

困ったときは

その他

安全のために 81

各部のなまえ・索引

本機でできること

HDV規格で見てみよう！

HDV規格では、従来のテレビに比べて有効走査線数が約2倍以上となり、画質が飛躍的に向上しました。本機はHDV規格に対応し、高精細で臨場感あふれるハイビジョン映像を録画/再生することができます。

HDV規格とは？

HDV規格とは、現在普及しているDV規格のカセットテープを使ってハイビジョンの映像を録画･再生するための新しい映像規格です。

- **本機では、「HDV規格」の中で、有効走査線数1,080本を実現するHDV規格の1080i方式を採用しています。**記録時の映像ビットレートは約25Mbpsです。

有効走査線数1,080本

- 本書では、とくに説明する場合を除き、HDV1080i方式のことをHDVと書きます。

本機の特長

1 **HDV/DV 規格に対応**
HDV規格とDV規格の両方に対応。お好みの規格で録画したり、再生できます。

2 **7.0 型ワイド LCD モニターを搭載**
くっきり鮮やかな表示で、見やすく使いやすい大型モニターを搭載。

3 **2 タイプのバッテリーを接続可能**
"インフォリチウム"バッテリーのLシリーズとMシリーズの2つのタイプを接続可能。用途に合わせて使い分けることができます。

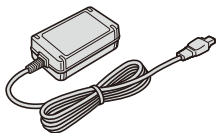
4 **いろいろな機器と接続して楽しめます**
本体側面には、i HDV/DV（i.LINK）端子、HDMI OUT端子、COMPONENT OUT端子（D端子）、A/V端子などを装備。ほかにも (USB)端子、メモリースティック デュオ スロットなど、豊富な外部接続環境を備えています。

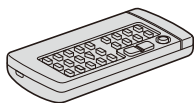
5 **プロにも使える機能を搭載**
ALLSCAN、ASSIGN（ユーザー設定）ボタン、STATUS CHECKなどさまざまな機能を搭載。プロユースにも対応できます。

6 **動画から 120 万画素の静止画取り込み**
テープに記録したハイビジョン映像からベストショットを選び、最大120万画素相当（1,440×810ドット）の静止画として"メモリースティック デュオ"に取り込むことができます。

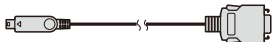
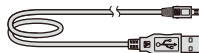
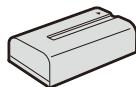
準備1:付属品を確かめる

箱を開けたら、付属品がそろっているか確認してください。万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。
(　)内は個数。

ACアダプター(1)(9ページ)

電源コード(1)(9ページ)

ワイヤレスリモコン(1)(87ページ)

単3形乾電池(リモコン用)(2)
電池を交換するときは、87ページをご覧ください。

AV接続ケーブル(1)(20、22、37ページ)

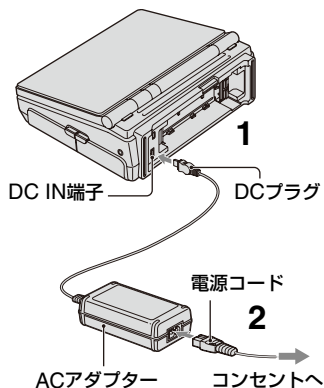
D端子コンポーネントビデオケーブル(1)(19ページ)

USBケーブル(1)(43ページ)

リチャージャブルバッテリーパック NP-F570(1)(9、74ページ)

取扱説明書 <本書> (1)

保証書(1)

準備2：電源を準備する

本機を使用するための電源を準備します。ACアダプターを接続してコンセントの電源を使う方法と、バッテリーを充電して使う方法があります。

ACアダプターを使う

本機で録画/編集などを行う場合や長時間使用する場合には、ACアダプターを接続してコンセントの電源を使います。

1 **DCプラグの▲マークを本機の▲マーク側にして、ACアダプターを本機のDC IN端子に接続する。**

2 **電源コードをACアダプターとコンセントに接続する。**

ご注意

- ACアダプターをはずすときは、本機とDCプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを引っぱらないようにしてください。プラグがコンセントから抜けることがあります。
- 本機をACアダプターに近づけすぎないでください。画面にノイズが出ることがあります。

ちょっと一言

- バッテリーを取り付けたままでもコンセントからの電源で本機を使うことができます。バッテリーは消耗しません。

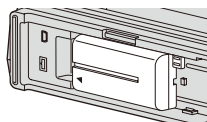
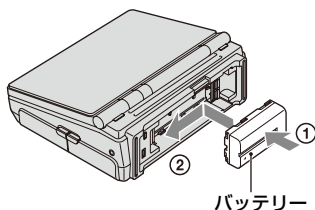
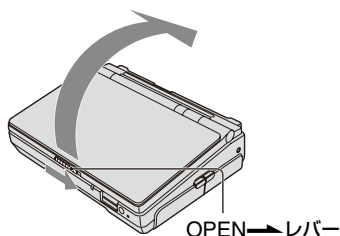
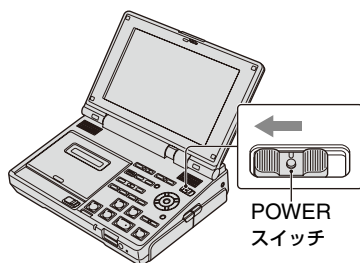
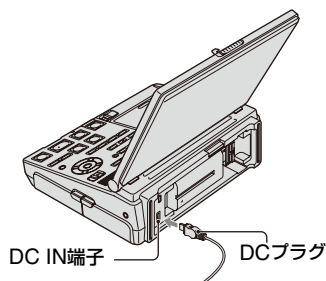
バッテリーを充電して使う

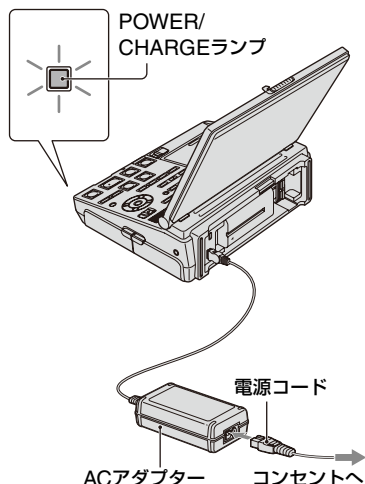
専用の“インフォリチウム”バッテリーのLシリーズ（付属バッテリーを含む）またはMシリーズ（別売り）（11ページ）を本機に取り付けて充電します。使用可能なバッテリーは12ページをご確認ください。

1 **バッテリーの中央部を押さえながら（①）、矢印の方向に「カチッ」というまでずらして取り付ける（②）。**

Lシリーズ：

バッテリーが斜めになっていないか、本機にしっかりロックされているかを確認してください。

次のページへつづく➡

2 OPEN⟶レバーをずらして、液晶パネルを開く。

3 POWERスイッチを「OFF（CHG）」（お買い上げ時の状態）にする。

4 DCプラグの▲マークを本機の▲マーク側にして、DC IN端子に接続する。

5 電源コードをACアダプターとコンセントに接続する。

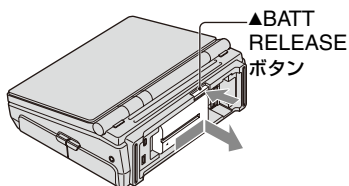
POWER/CHARGEランプがオレンジ色に点灯し、充電が始まります。

POWER/CHARGEランプが消えると充電が終了します（満充電）。充電が終了したら、本機からACアダプターをはずしてください。

ご注意

- Lシリーズと Mシリーズ（別売り）（11ページ）で取り付ける方向が異なります。それぞれ正しい方向に取り付けてください。誤った方向に無理に取り付けようとすると、故障の原因になります。
- 充電するとき、バッテリーを取り付けていないほうのバッテリー端子に、何も触れていないことを確認してください。
- ACアダプターをはずすときは、本機とDCプラグを持って抜いてください。

バッテリーを取りはずすには

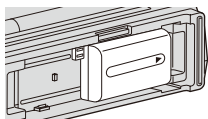
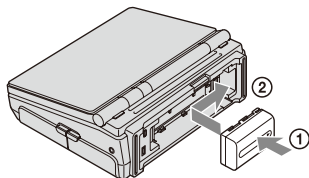
POWERスイッチを「OFF(CHG)」にして、▲BATT RELEASEボタンを押しながら、バッテリーを取りはずす。

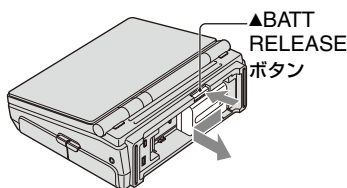
Lシリーズ:

ご注意

- バッテリーやACアダプターは、POWER/CHARGEランプが点灯していないことを確認してから、取りはずしてください。

"インフォリチウム"バッテリーのMシリーズ(別売り)を使うには

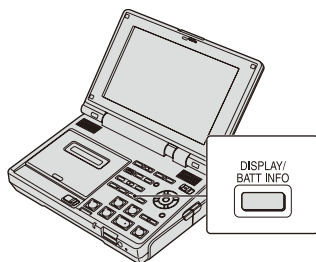
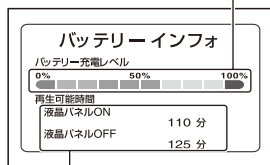
取り付けるとき:

バッテリーの中央部を押さえながら(①)、矢印の方向に「カチッ」というまでずらして取り付ける(②)。

バッテリーが斜めになっていないか、本機にしっかりロックされているかを確認してください。

取りはずすとき:

保管するときは

長い時間使わないときは、バッテリーを使い切ってから保管する(75ページ)。

バッテリーの残量を確認するには

POWERスイッチを「OFF(CHG)」にして、DISPLAY/BATT INFOボタンを押す。

しばらくすると、バッテリーの情報が約7秒間表示されます。情報が表示されている間にボタンを押すと、20秒まで表示を延長できます。

充電時間（満充電）

使い切った状態からのおよその時間（分）。

バッテリー型名	満充電時間
NP-FM50	150
NP-QM71D	260
NP-QM91D	360
NP-F570（付属）	260
NP-F770	370
NP-F970	485

ご注意

- バッテリーNP-FM30/F330/F530/500/510/710は本機では使用できません。使用できないバッテリーを無理に取り付けようとすると故障の原因になります。

再生可能時間

満充電からのおよその時間（分）。

HDV規格の画像を再生したとき

バッテリー型名	液晶画面を開いて再生	液晶画面を閉じて再生
NP-FM50	70	120
NP-QM71D	180	300
NP-QM91D	275	455
NP-F570（付属）	140	235
NP-F770	290	480
NP-F970	435	725

DV規格の画像を再生したとき

バッテリー型名	液晶画面を開いて再生	液晶画面を閉じて再生
NP-FM50	75	130
NP-QM71D	185	315
NP-QM91D	285	475
NP-F570（付属）	145	245
NP-F770	300	510
NP-F970	450	760

バッテリーについて

- バッテリーの交換は、POWERスイッチを「OFF（CHG）」にして、POWER/CHARGEランプ（10ページ）が消えてから行ってください。
- 次のとき、充電中のPOWER/CHARGEランプが点滅したり、バッテリーインフォ（11ページ）が正しく表示されないことがあります。
  – バッテリーを正しく取り付けていないとき
  – バッテリーが故障しているとき
  – バッテリーが劣化しているとき（バッテリーインフォ表示のみ）
- 電源コードをコンセントから抜いても、ACアダプターが本機のDC IN端子に接続されている限り、バッテリーからは電源供給されません。

充電/再生時間について

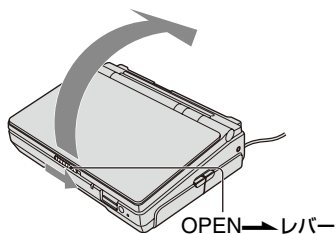
- 25℃（10℃～30℃が推奨）で使用したときの時間です。
- 低温の場所で使うと、再生時間はそれぞれ短くなります。
- 使用状態によって、再生可能時間が短くなります。

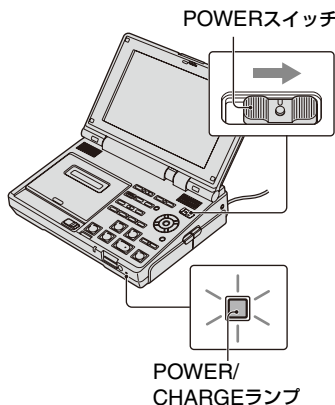
ACアダプターについて

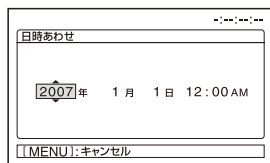
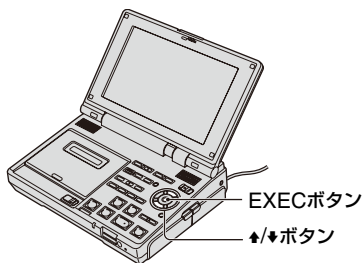
- ACアダプターは手近なコンセントを使用してください。本機を使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- ACアダプターを壁との隙間などの狭い場所に設置して使用しないでください。
- ACアダプターのDCプラグやバッテリー端子を金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

準備3：電源を入れて日付時刻を合わせる

初めて電源を入れたときは日付、時刻を設定してください。設定しないと、電源を入れるたびに[日時あわせ]画面が表示されます。

1 OPEN⟶レバーをずらして、液晶パネルを開く。

2 緑のボタンを押しながら、POWERスイッチを「ON」にする。

本体前面のPOWER/CHARGEランプが緑色に点灯し、[日時あわせ]画面が表示されます。

3 ↑/↓ボタンで[年]を合わせ、EXECボタンを押す。

2079年まで設定できます。

真夜中は12:00AM、正午は12:00PMです。

4 同様に、[月]、[日]、時、分を合わせ、EXECボタンを押す。

時計が動き始めます。

電源を切るには

POWERスイッチを「OFF（CHG）」にする。

日付時刻を設定し直すときは

MENUボタンを押して、（その他）→[日時あわせ]を選択し、日付時刻を設定する。

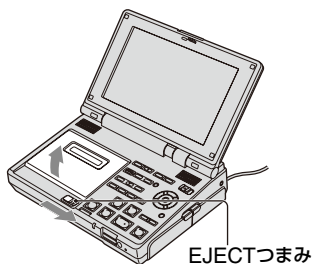
ご注意

- **3か月**近く使わないでおくと、内蔵の充電式電池が放電して、日付時刻の設定が解除されます。内蔵の充電式電池を充電してから設定し直してください（78ページ）。
- 電源を入れてから録画/再生が可能になるまで数秒かかります。その間、本機の操作はできません。

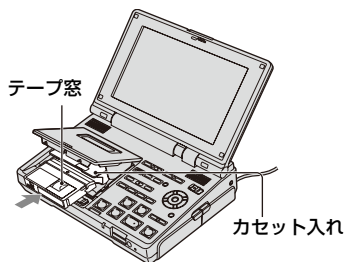
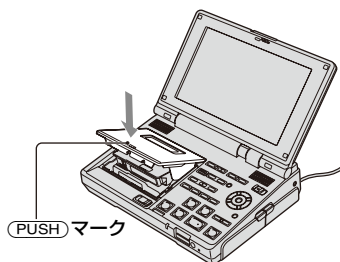
準備4：カセットや"メモリースティック デュオ"を入れる

カセットを入れる

Mini DV マーク付きミニDVカセットのみ使えます（71ページ）。

1 EJECTつまみを矢印の方向にずらす。

カセット入れが自動的に開きます。

2 テープ窓を上側にして、カセットを入れる。

カセット背面の中央を軽く押します。

3 (PUSH)マークを押して、カセットカバーを閉める。

カセット入れが自動的に収納されます。

ご注意

- カセット入れが開いているときに、内部に指を入れたり、触ったりしないでください。故障の原因になります。
- (PUSH)マーク以外を押すとカセット入れが閉まらないことがあります。
- カセット入れが完全に開くまでカバーを閉めないでください。故障の原因となります。

ちょっと一言

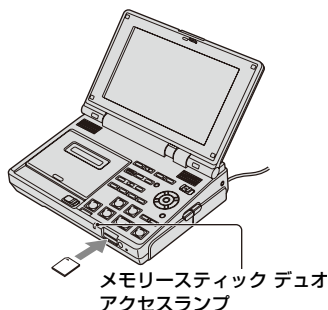
- ［DV録画モード］の設定によって、録画可能時間は異なります（52ページ）。(DV)

カセットを取り出すには

手順**1**と同じ操作でカセット入れを開けて、カセットを取り出す。

“メモリースティック デュオ”を入れる

MEMORY STICK DUO、MEMORY STICK PRO DUOマーク付き“メモリースティック デュオ”のみ使えます（72ページ）。

“メモリースティック デュオ”を正しい向きに、「カチッ」というまで押し込む。

ご注意

- 誤った向きで無理に入れると、“メモリースティック デュオ”やメモリースティック デュオ スロット、画像データが破損することがあります。

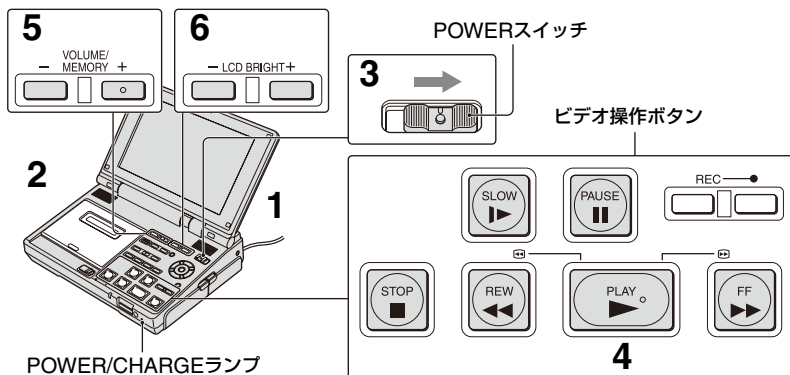
“メモリースティック デュオ”を取り出すには

“メモリースティック デュオ”を軽く1度押して取り出す。

ご注意

- アクセスランプの点灯中や点滅中は、データの読み込みや書き込みを行っています。本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“メモリースティック デュオ”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。
- 出し入れ時には“メモリースティック デュオ”の飛び出しにご注意ください。

本機で見る

下記の手順で動画を再生します。

1 電源を準備する（9ページ）。

2 本機に再生したいカセットを入れる（14ページ）。

3 緑のボタンを押しながら、POWERスイッチを「ON」にする。

POWER/CHARGEランプが緑色に点灯します。

4 PLAY ►ボタンを押す。

再生が始まります。

5 VOLUME/MEMORY（－/＋）ボタンで音量を調節する。

6 LCD BRIGHT（－/＋）ボタンで液晶画面の明るさを調節する。

ご注意

- HDV規格とDV規格が混在したテープを再生する場合、HDVとDVの信号が切り替わるときに、一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- HDV規格で録画したテープは、DV規格のビデオカメラやミニDVデッキでは再生できません。

ちょっと一言

- 再生中の画面表示については、31ページと88ページをご覧ください。
- 画面の明るさは、（表示設定）→［パネル設定］→［明るさ］でも調節できます（54ページ）。
- 録画/再生中に画面の明るさを調節しても、録画される画像やもとの画像に影響はありません。
- 他機でモノラルマイクを接続して録画したテープを再生するときは、［バイリンガル］（57ページ）をご覧ください。
- ヘッドホン（別売り）で音声を聞くときは、Ω（ヘッドホン）端子（85ページ）に接続します。

再生を停止するには

STOP ■ボタンを押す。

再生を一時停止するには

再生中にPAUSE ❚❚ボタンを押す。もう一度PAUSE ❚❚ボタンを押すか、PLAY ▶ボタンを押すと、通常の再生に戻ります。

ちょっと一言

- 一時停止が3分以上続くと、自動的に再生停止になります。

テープを早送り/巻き戻しするには

テープを再生していない状態で、早送りのときはFF ▶▶ボタンを、巻き戻しのときはREW ◀◀ボタンを押す。

ちょっと一言

- テープを早送り/巻き戻し中は、液晶画面が暗くなりますが故障ではありません。

動画を見ながら場面を探すには

再生中にFF ▶▶ボタン/REW ◀◀ボタンを押したままにする（ピクチャーサーチ）。早送り中に画像を見るときはFF ▶▶ボタンを、巻き戻し中はREW ◀◀ボタンを押したままにする（高速アクセス）。

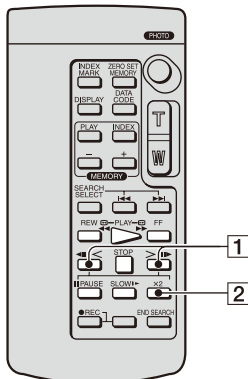
スロー再生するには

再生中にSLOW ❙▶ボタンを押す。PLAY ▶ボタンを押すと通常の再生に戻ります。

ご注意

- 変速再生中は音声が出ません。また、映像がモザイク状に残ることがあります。
- HDV規格で記録された画像を再生するときは、次のことにご注意ください。
  - 逆方向にピクチャーサーチ/高速アクセスできません。
  - 一時停止や変速再生している画像を i HDV/DV（i.LINK）端子から出力することはできません。
  - ピクチャーサーチ中に画面が乱れます。
- 本機には画像をなめらかにスロー再生する機能が搭載されていますが、i HDV/DV（i.LINK）端子から出力される画像には、この機能は無効です。

リモコンで操作する

本機はリモコンで操作することができます。本機のビデオ操作ボタンと同じように操作できるほか、リモコンからのみ操作可能な機能があります。

逆方向に再生するには

再生中に◀II＜ボタン1を押す。逆方向にスロー再生するときは、◀II＜ボタン1を押してからSLOW ❙▶ボタンを押す。

ちょっと一言

- 逆方向再生中に画面の上下や中央に横縞が入ることがありますが、故障ではありません。

コマ送りで見るには DV

再生の一時停止中に＞II▶ボタン（＋）1を押す。逆方向にコマ送りするときは、◀II＜ボタン（－）1を押す。

2倍速で見るには（倍速再生） DV

再生中に×2ボタン2を押す。逆方向に倍速再生するときは、◀II＜ボタン1を押してから×2ボタン2を押す。

ご注意

- リモコンについては28、87ページもご覧ください。
- 変速再生中は音声が出ません。また、映像がモザイク状に残ることがあります。
- HDV規格で記録された画像を再生するときは、次のことにご注意ください。
  - 逆方向へのスロー再生、逆方向へのコマ送りはできません。
  - 一時停止や変速再生している画像をi HDV/DV（i.LINK）端子から出力することはできません。
  - 逆方向再生のときに画面が乱れます。

テレビで見る

テレビの種類や接続する端子によって接続方法やテレビに映る画質(HD(ハイビジョン)/SD(標準))が異なります。
電源は、付属のACアダプターを使ってコンセントからとることをおすすめします(9ページ)。
また、接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

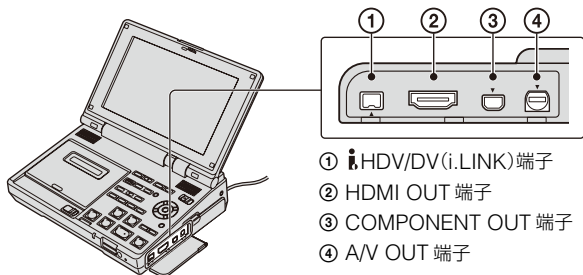
ちょっと一言

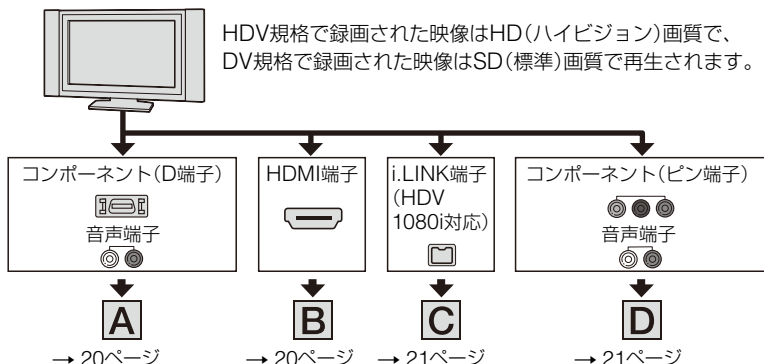
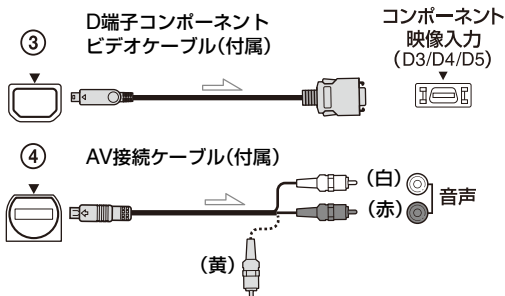
- x.v.Colorで録画された映像は、x.v.Color対応のテレビに接続して見ることができます(76ページ)。再生時にはテレビ側の設定が必要になる場合があります。

本機の端子について

端子カバーを開けて接続してください。

① i.HDV/DV(i.LINK)端子
② HDMI OUT 端子
③ COMPONENT OUT 端子
④ A/V OUT 端子

ご注意

- メニュー設定を変える前に、必ずi.LINKケーブルを抜いてください。テレビと接続したまま[HDV/DV選択]や[i.LINK DV変換]の設定を変えると、テレビが映像信号を正しく認識できないことがあります。

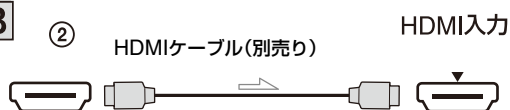
ハイビジョンテレビとの接続方法

HDV規格で録画された映像はHD(ハイビジョン)画質で、DV規格で録画された映像はSD(標準)画質で再生されます。

→ 20ページ　→ 20ページ　→ 21ページ　→ 21ページ

次のページへつづく→

基本の使いかた

ご注意

- D端子コンポーネントビデオケーブルのみを接続した場合、音声は出力されません。音声の出力にはAV接続ケーブルも必要です。コンポーネント映像入力端子付近の音声端子（赤と白）に接続してください。

ご注意

- HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。
- 本機側はタイプA（19ピン）、テレビ側はテレビの端子にあったタイプのHDMIケーブルをお使いください。
- 著作権保護のための信号が記録されているDV規格の映像を、HDMI OUT端子から出力することはできません。
- i.LINK接続でDV入力された画像（25ページ）を出力することはできません。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。また、本機と接続機器の出力端子同士での接続はしないでください。故障の原因となります。

:信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定

C

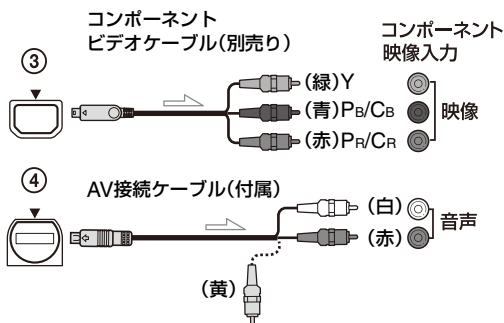
(入出力/録画設定)→[HDV/DV選択]→[オート](52ページ)[i.LINK DV変換]→[切](53ページ)

ご注意

- テレビにはHDV1080i方式対応のi.LINK端子が必要です。詳しくはお使いのテレビの仕様をご確認ください。対応するソニー製機種の情報については、下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cam/support
- お使いのテレビがHDV1080i方式に対応していない場合は、付属のD端子コンポーネントビデオケーブルとAV接続ケーブルで A の接続をしてください。
- テレビに本機を認識させるためには、テレビ側の設定が必要です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機の HDV/DV(i.LINK)端子は4ピンです。テレビ側はテレビに合わせて端子を選んでください。

ちょっと一言

- i.LINKについて詳しくは75ページをご覧ください。

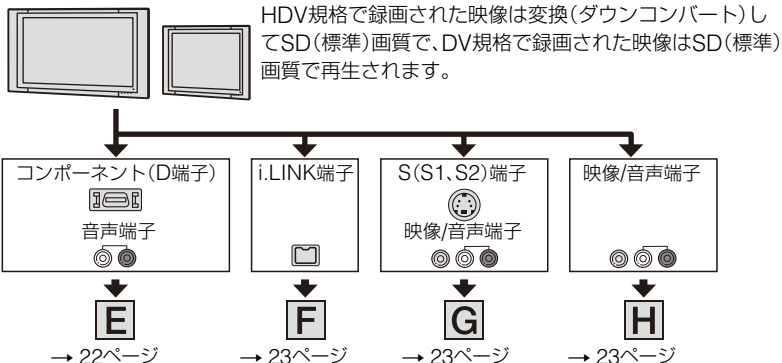
D

(入出力/録画設定)→[HDV/DV選択]→[オート](52ページ)[コンポーネント出力]→[D3](52ページ)

ご注意

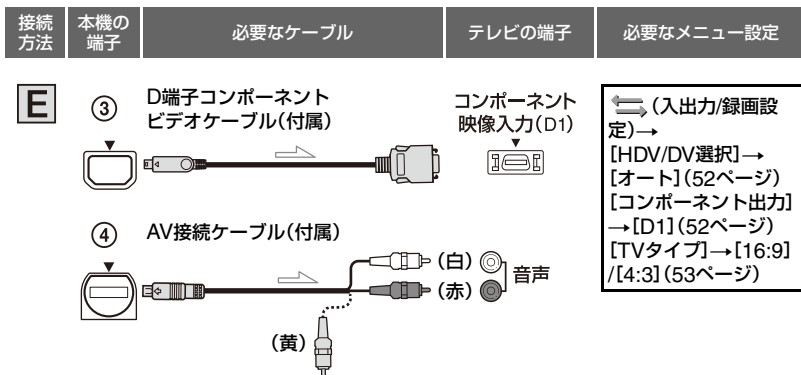
- コンポーネントビデオケーブルのみを接続した場合、音声は出力されません。音声の出力にはAV接続ケーブルも必要です。コンポーネント映像入力端子付近の音声端子(赤と白)に接続してください。

次のページへつづく→

ハイビジョン非対応のワイドテレビ/4:3テレビとの接続方法

HDV規格で録画された映像は変換(ダウンコンバート)してSD(標準)画質で、DV規格で録画された映像はSD(標準)画質で再生されます。

テレビ(ワイド/4:3)に合わせて画像の比率を変えるには

ご覧になるテレビに合わせて[TVタイプ]を[16:9]または[4:3]に設定する(53ページ)。

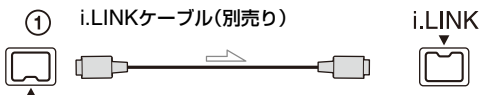
:信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定

ご注意

- D端子コンポーネントビデオケーブルのみを接続した場合、音声は出力されません。音声の出力にはAV接続ケーブルも必要です。コンポーネント映像入力端子付近の音声端子(赤と白)に接続してください。

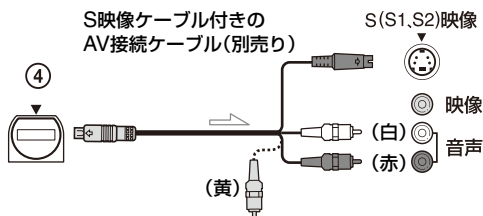
⇒ :信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定

F

(入出力/録画設定)→[HDV/DV選択]→[オート](52ページ)[i.LINK DV変換]→[入](53ページ)

ご注意

- テレビに本機を認識させるためには、テレビ側の設定が必要です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機の HDV/DV(i.LINK)端子は4ピンです。テレビ側はテレビに合わせて端子を選んでください。

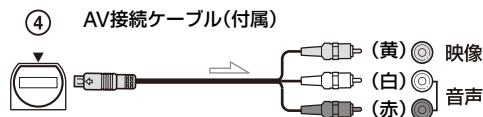
G

(入出力/録画設定)→[HDV/DV選択]→[オート](52ページ)[TVタイプ]→[16:9]/[4:3](53ページ)

ご注意

- S(S1、S2)映像端子のみを接続した場合、音声は出力されません。音声を出力するにはS映像ケーブル付きのAV接続ケーブルの白と赤のプラグも接続してください。
- AV接続ケーブル(接続 H)に比べ、画像をより忠実に再現できます。
- 本機はS1映像端子対応のため、接続する端子がSまたはS2映像端子のときは画像が正しく表示されない場合があります。その場合、テレビの設定を変更することで改善されることがあります。テレビの取扱説明書もあわせてお読みください。

H

(入出力/録画設定)→[HDV/DV選択]→[オート](52ページ)[TVタイプ]→[16:9]/[4:3](53ページ)

次のページへつづく→

ビデオ経由でテレビに接続するには

ビデオの入力端子によって接続方法を選ぶ。ビデオの外部入力端子に接続し、ビデオに入力切り換えスイッチがある場合は「外部入力」(ビデオ1、ビデオ2など)に切り換える。

モノラルテレビ(音声端子がひとつ)のときは

AV接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力端子へ、白いプラグ(左音声)か赤いプラグ(右音声)のどちらかを音声入力端子へ接続する。

ご注意

- AV接続ケーブルを使って画像を出力すると、出力される画質はSD(標準)になります。

ちょっと一言

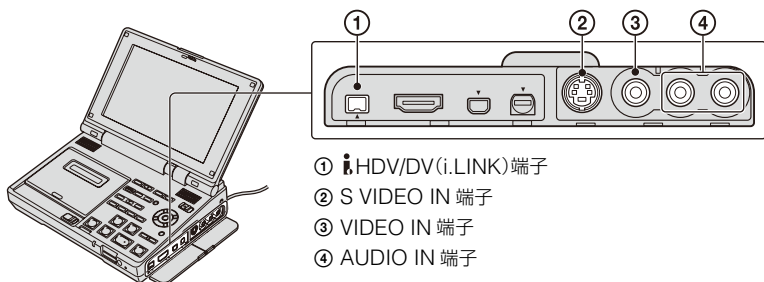
- HDV/DV(i.LINK)端子以外から画像を出力するときに、複数のケーブルでテレビと接続しているときは、HDMI OUT端子→COMPONENT OUT端子→A/V OUT端子の順で優先されます。
- HDMI (High Definition Multimedia Interface)とはテレビ接続機器のデジタル映像/音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI端子とテレビを1本のケーブルで接続することで、高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。

ビデオやテレビから録画する

電源は、付属のACアダプターを使ってコンセントからとってください（9ページ）。
また、接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続する

接続する機器や端子の種類によって、接続方法や録画される画質が異なります。

本機の端子について

端子カバーを開けて接続してください。

① HDV/DV（i.LINK）端子
② S VIDEO IN 端子
③ VIDEO IN 端子
④ AUDIO IN 端子

i.LINKケーブル（別売り）を接続するときは

:信号の流れ

本機の端子	必要なケーブル	接続する端子	接続する機器
①	i.LINKケーブル（別売り）	i.LINK	HDV1080i方式対応機器 →HD画質*

- 接続する機器には、HDV1080i方式対応のi.LINK端子が必要です。

本機の端子	必要なケーブル	接続する端子	接続する機器
①	i.LINKケーブル（別売り）	i.LINK	i.LINK端子付きのAV機器 →SD画質

* DV 規格で記録された画像は、SD（標準）画質で録画されます。

ご注意

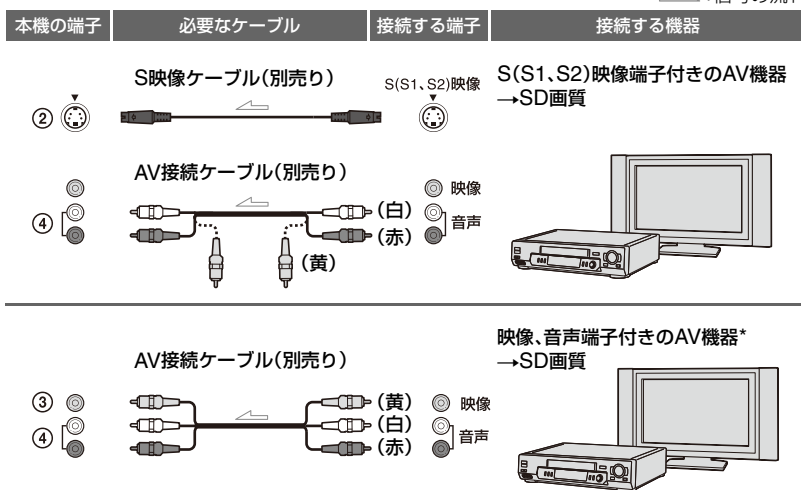
- メニュー設定を変える前に、必ずi.LINKケーブルを抜いてください。他の機器と接続したまま[HDV/DV選択]や[i.LINK DV変換]の設定を変えると、本機が映像信号を正しく認識できないことがあります。
- 本機の HDV/DV(i.LINK)端子は4ピンです。接続する機器側の端子は、それぞれの機器に合わせてください。

ちょっと一言

- i.LINKケーブル接続時は、デジタル信号でやりとりをするので画質・音質の劣化がほとんどありません。

S映像ケーブルとAV接続ケーブル/AV接続ケーブルのみで接続するときは

:信号の流れ

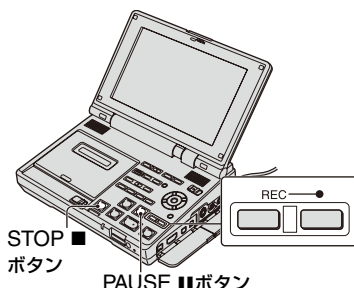
本機の端子	必要なケーブル	接続する端子	接続する機器
②	S映像ケーブル(別売り)	S(S1、S2)映像	S(S1、S2)映像端子付きのAV機器 →SD画質
④	AV接続ケーブル(別売り) (白) (赤) (黄)	映像 音声	
③ ④	AV接続ケーブル(別売り) (黄) (白) (赤)	映像 音声	映像、音声端子付きのAV機器* →SD画質

* モノラル(ひとつの音声入力)の場合は、AV 接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ(左音声)または赤いプラグ(右音声)を音声入力へ接続してください。

ご注意

- 接続する機器やテレビの端子に合ったケーブルをご用意ください。

ちょっと一言

- S映像ケーブルは、AV接続ケーブルでの接続に比べ、画像をより忠実に再現できます。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。S映像ケーブルのみをつないだ場合、音声は出力されません。
- HDV/DV(i.LINK)端子以外から画像を入力するときに、複数のケーブルでテレビと接続しているときは、S VIDEO IN端子 → VIDEO IN端子の順で優先されます。

本機で録画する

1 本機（録画側）の準備をする。

本機に録画用のカセットを入れ、POWERスイッチを「ON」にする。

2 i.LINKケーブルで接続するときは、本機への入力信号を設定する（52ページ）。

通常は［HDV/DV選択］を［オート］（お買い上げ時の設定）に設定する。

3 本機と再生側機器またはテレビを接続する。

接続について詳しくは25ページをご覧ください。

4 再生側機器やテレビの準備をする。

電源を入れて、ビデオには再生するカセットを入れる。
テレビと接続すると、本機の画面にテレビの画像が表示されます。
i.LINKケーブルで接続しているときは、入力される信号の規格（HDVIN i.LINK またはDVIN i.LINK ）が本機の画面に表示されます（再生側の画面にも表示されることがありますが、録画はされません）。

5 本機のRECボタンを2つ同時に押し、すぐにPAUSE ❚❚ボタンを押す。

録画一時停止状態になります。

6 ビデオから録画するときは、ビデオを再生する。

本機の画面にビデオの画像が表示されます。

7 録画を開始したい場面でもう一度本機のPAUSE ❚❚ボタンを押して、録画を始める。

8 録画を終了したい場面でSTOP ■ボタンを押す。再生側機器でも再生を停止する。

リモコンを使って録画する

手順**5**でRECボタンを2つ同時に押し、すぐにPAUSE ❚❚ボタンを押して本機を録画一時停止にする。手順**7**でPAUSE ❚❚ボタンを押して、録画を始める。

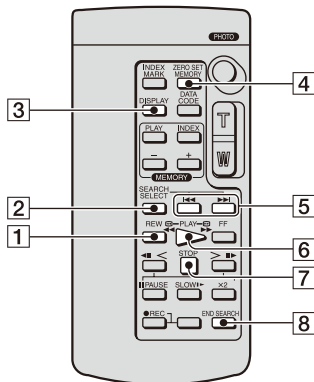
ご注意

- テレビ放送などの番組を i HDV/DV（i.LINK）端子から録画することはできません。
- DV規格にのみ対応した機器から録画するとき、HDV規格で録画することはできません。

次のページへつづく➡

- HDV規格とDV規格が混在したテープから本機で録画するときに、[HDV/DV選択]が[オート]に設定されている場合は、HDVとDVの信号が切り替わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- HDV規格とDV規格が混在したテープから本機で録画するとき、HDV規格の部分のみ録画する場合は[HDV/DV選択]を[HDV]に、DV規格の部分のみ録画するときは[DV]に設定してください(52ページ)。このとき、選択していない規格の部分は無記録状態となります。
- もう1台のGV-HD700と接続して録画するときは、再生側のGV-HD700でも[HDV/DV選択]を[オート]に設定してください。
- i.LINKケーブルで接続したときは、次のことにご注意ください。
  - 録画中に本機の画面上で色ムラが出ることがありますが、録画された画像には影響ありません。
  - 再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。
  - 録画を一時停止または停止したあとで再開すると、スムーズにつながりません。
  - 接続する機器によっては日付/カメラデータが記録されないことがあります。
  - 映像または音声のみを記録することはできません。
- リモコンを使って録画するとき、再生側のビデオが誤動作することがあります。その場合は、再生側のビデオのリモコンコードをVTR2以外に切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。
- S映像ケーブルとAV接続ケーブル、またはAV接続ケーブルのみで接続するとき、再生側で早送りやスロー再生などを行うと、本機で録画中の画像が乱れることがあります。

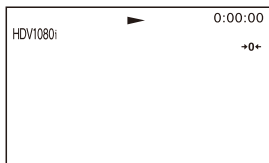
テープの頭出しをする

リモコンを使って、テープの頭出しをすることができます。

ご注意

- リモコンについては17、87ページもご覧ください。

見たい場面にすばやく戻す(ゼロセットメモリー)

1 再生中に、後で頭出ししたい場面で、ZERO SET MEMORYボタン4を押す。

テープカウンターが「0:00:00」と表示され、→0← が点灯します。

テープカウンターが表示されないときは、DISPLAYボタン3を押す。

2 再生し終わったら、STOPボタン[7]を押す。

3 REW ◀◀ボタン[1]を押す。

テープカウンターが「0:00:00」付近になると自動的に停止します。
テープカウンターがタイムコード表示に戻り、➔0← が消えます。

4 PLAYボタン[6]を押す。

「0:00:00」の場面からもう一度再生します。

ご注意

- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が生じることがあります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かないことがあります。
- ゼロセットメモリーを設定しているときに以下の操作をすると、ゼロセットメモリーが解除されます。
  – MEMORY PHOTOボタンを押す
  – エンドサーチを実行する
  – インデックスサーチを実行する

ちょっと一言

- ASSIGNボタン（32ページ）に［ゼロセットメモリー操作］を設定すると、本機でも同じ操作ができます。

ゼロセットメモリーを解除するには

巻き戻す前に、ZERO SET MEMORYボタン[4]をもう一度押す。

最後に録画した場面を頭出しする（エンドサーチ操作）

END SEARCHボタン[8]を押す。

最後に録画した場面の末尾の約5秒間が再生されます。

ご注意

- カセットをいったん取り出すと、エンドサーチは働きません。
- テープの途中に無記録部分があると、エンドサーチが正しく働かない場合があります。

ちょっと一言

- ASSIGNボタン（32ページ）に［エンドサーチ操作］を設定すると、本機でも同じ操作ができます。

撮影日でテープを頭出しする（日付サーチ）

撮影日の変わり目を頭出しできます。

1 SEARCH SELECTボタン[2]を繰り返し押して、［日付サーチ］を選ぶ。

2 |◀◀（前の日付）/▶▶|（後の日付）ボタン[5]を押して、頭出しする。

現在のテープ位置に対して前後の日付を選びます。
選んだ場面で自動的に再生します。

ご注意

- 日付や時刻を設定していない機器で撮影したテープでは、日付サーチできません。
- 日付の変更点の間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。

- テープの途中に無記録部分があると、正しく頭出しできないことがあります。

ちょっと一言

- ASSIGNボタン（32ページ）に[SEARCH SEL]（サーチ選択）、[SEARCH ⏮]、[SEARCH ⏭]を設定すると、本機でも同じ操作ができます。

日付サーチを中止するには

STOPボタン[7]を押す。

インデックス信号の打ち込まれた位置を探す（インデックスサーチ）

本機や他の機器で録画するときに打ち込んだインデックス信号（34ページ）の位置を頭出しできます。

1 **SEARCH SELECTボタン[2]を繰り返し押して、[インデックスサーチ]を選ぶ。**

2 **⏮（前のインデックス）/⏭（後のインデックス）ボタン[5]を押して、頭出しする。**

現在のテープ位置に対して前後のインデックスを選びます。選んだ場面で自動的に再生します。

ご注意

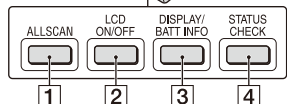
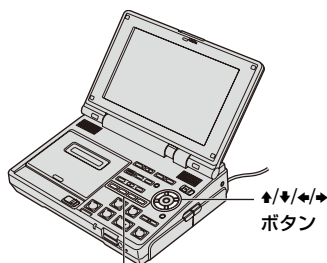
- インデックスの間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく頭出しできないことがあります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かない場合があります。

ちょっと一言

- ASSIGNボタン（32ページ）に[SEARCH SEL]（サーチ選択）、[SEARCH ⏮]、[SEARCH ⏭]を設定すると、本機でも同じ操作ができます。

インデックスサーチを中止するには

STOPボタン[7]を押す。

本機の設定を変更／確認する

液晶画面を消す

液晶画面を消します。バッテリーを長持ちさせるときなどに効果的です。

LCD ON/OFFボタン2を押す。

もう一度押すと、液晶画面が点灯します。

ちょっと一言

- 録画/再生中に液晶画面を消しても、録画される画像やもとの画像に影響はありません。

画面表示を切り換える

タイムコードなどの情報を画像とあわせて表示できます。

DISPLAY/BATT INFOボタン3を押す。

押すたびに表示→カウンター表示→非表示と切り替わります。カウンター表示のときは、↑/↓/←/→ボタンでカウンターの表示位置を変更することができます。

ちょっと一言

- テレビに接続して見るときは、［画面表示出力］を［ビデオ出力/パネル］に設定すると、テレビ画面でも同様に画面表示できます（55ページ）。
- タイムコードは、テープの位置の指定を容易にするために、テープ上に記録される位置情報信号です。本機では、録画時にタイムコードが自動的に記録されます。
- タイムコードは、テープの先頭を「0:00:00:00」として、順に記録されます。
- テープの途中で空き（無記録部分）を作ると「-:--:--:--」と表示されます。無記録部分のうしろに録画すると、もう一度「0:00:00:00」から記録されます。
- タイムコードは書き直すことはできません。
- 本機のタイムコードはドロップフレーム方式です。誤差修正のために数フレームとばして表示することがあります。

本機の設定を確認する（STATUS CHECK）

以下の項目がどのような設定値になっているかを確認できます。

- オーディオ情報（57ページ）
- 出力情報（［HDV/DV選択］など）（52ページ）
- ASSIGNボタンに割り当てた機能（32ページ）
- パネル設定（54ページ）

1 STATUS CHECKボタン4を押す。

2 ↑/↓ボタンで表示する項目を選ぶ。

ボタンを押すたびに、オーディオ←→出力←→ユーザー設定（ASSIGNボタン）←→パネル設定と切り替わります。

基本の使いかた

ステータス表示を消すには

STATUS CHECKボタン4をもう一度押す。

全画角を表示する（ALLSCAN）HDV1080i

テレビなどでは確認できない、画像の周辺部を確認できます。

ALLSCANボタン1を押す。

画像の周辺部がすべて表示されます。もう一度押すと、もとの表示に戻ります。

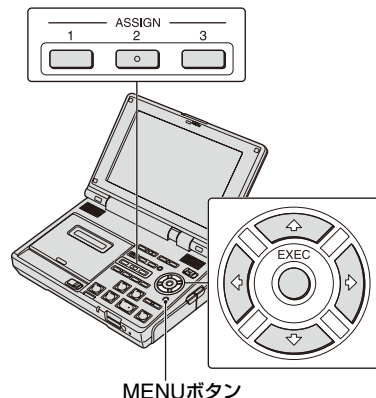
ご注意

- ALLSCAN表示にすると、画像の周りが黒く表示されます。
- ALLSCAN表示しても、もとの画像に影響はありません。

ASSIGNボタンに機能を設定する

機能によっては、ASSIGNボタンに割り当てて操作するものがあります。
ASSIGNボタン1〜3に1つずつ割り当てられます。

割り当てられる機能

- DVワイド表示（55ページ）
- 再生ズーム（33ページ）
- パネルプロファイル（54ページ）
- インデックス打込み（34ページ）
- ゼロセットメモリー操作（28ページ）
- i.LINK DV変換（53ページ）
- コンポーネント出力（52ページ）
- A/V入力→DV出力（39ページ）
- エンドサーチ操作（29ページ）
- データコード（56ページ）
- カラーバー（55ページ）
- SEARCH SEL（29、30ページ）
- SEARCH ▶▶I（29、30ページ）
- SEARCH I◀◀（29、30ページ）

1 MENUボタンを押す。

2 ▲/▼ボタンで（その他）を選んでEXECボタンを押す。

3 ↑/↓ボタンで[ユーザー設定ボタン登録]を選んでEXECボタンを押す。

4 ↑/↓ボタンで設定したいASSIGNボタンの番号(ユーザー設定1〜3)を選び、EXECボタンを押す。

機能が割り当てられていないボタンには、[------]が表示されます。

5 ↑/↓ボタンで割り当てる機能を選び、EXECボタンを押す。

6 ↑/↓ボタンで[決定]を選び、EXECボタンを押す。

7 MENUボタンを押して、メニュー画面を消す。

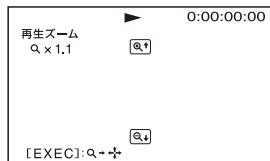
再生ズームする

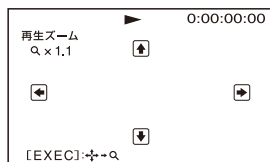
動画を1.1〜5倍、静止画を1.5〜5倍の範囲でズームできます。

1 ASSIGNボタンに[再生ズーム]を設定する(32ページ)。

2 [再生ズーム]を割り当てたASSIGNボタンを押す。

画像の中央が拡大して表示されます。

3 ↑ボタン(望遠)と↓ボタン(広角)で倍率を調節する。

4 EXECボタンを押し、↑/↓/←/→ボタンでズーム位置を動かして調節する。

もう一度EXECボタンを押すとズーム位置が固定され、↑/↓ボタンで倍率を調節できる状態に戻ります。

ご注意

- 外部入力している画像では再生ズームできません。
- 拡大された画像は、HDV/DV(i.LINK)端子からは出力されません。
- 動画の再生ズーム中にMENUボタンを押すと、ズーム表示が解除されます。
- 静止画の再生ズーム中に次のボタンを押すと、ズーム表示が解除されます。
  – MENUボタン
  – MEMORY PLAYボタン
  – MEMORY INDEXボタン
  – VOLUME/MEMORYボタン(−/+)

ちょっと一言

- 再生ズームの倍率は、リモコンのズームボタン（T（望遠）/W（広角））でも調節できます。
- 再生ズーム中にDISPLAY/BATT INFOボタンを押すと、タイムコードや矢印などを消すことができます。
- 再生ズーム中の画像は、"メモリースティック デュオ"に静止画として記録することができません（41ページ）。

再生ズームを終了するには

［再生ズーム］を割り当てたASSIGNボタンをもう一度押すか、再生を停止する。

インデックス信号を打ち込む

インデックス信号を打ち込んで録画すると、その場面を頭出しできます（30ページ）。インデックスの変わり目を確認したり、インデックスごとに編集するときに便利です。

1 ASSIGNボタンに［インデックス打込み］を設定する（32ページ）。

2 ［インデックス打込み］を割り当てたASSIGNボタンを押す。

録画中に押したとき

約7秒間 が表示され、インデックス信号が記録されます。

録画前に押したとき

が点滅します。
録画を始めると、約7秒間 が表示され、インデックス信号が記録されます。

録画前に［インデックス打込み］を取り消すには

が点滅中に、［インデックス打込み］を割り当てたASSIGNボタンをもう一度押す。

ご注意

- 録画したテープにインデックス信号をあとから打ち込むことはできません。

他のビデオ、DVD/HDDレコーダーにダビングする

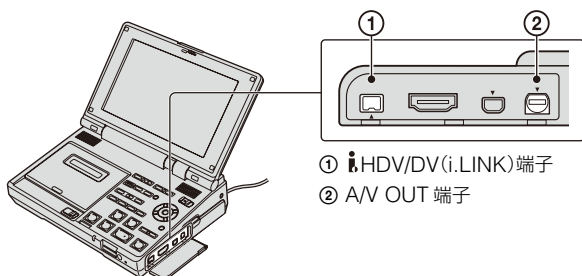
電源は、付属のACアダプターを使ってコンセントからとってください(9ページ)。
また、接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続する

ビデオ、DVD/HDDレコーダーの種類や接続する端子によって、接続方法や取り込まれる画質が異なります。

本機の端子について

端子カバーを開けて接続してください。

① i.HDV/DV(i.LINK)端子
② A/V OUT 端子

ご注意
- HDMIケーブルを使ってのダビングはできません。

i.LINKケーブル(別売り)を接続するときは

:信号の流れ

本機の端子	必要なケーブル	接続する端子	接続する機器
①	i.LINKケーブル(別売り)	i.LINK	HDV1080i方式対応機器 →HD画質*
①	i.LINKケーブル(別売り)	i.LINK	i.LINK端子付きのAV機器 →SD画質

- 接続する機器には、HDV1080i方式対応のi.LINK端子が必要です。

* DV 規格で記録された画像は、どの接続でも SD(標準)画質でダビングされます。

次のページへつづく➡

画像の規格について

ダビングされる画像の規格（HDVまたはDV）は、記録された画像や接続する機器が対応している規格によって異なります。下記の表でダビングしたい規格を選び、必要なメニュー設定を行ってください。

<table>
<tr><th rowspan="2">ダビングしたい規格</th><th rowspan="2">再生する画像の規格</th><th colspan="2">接続する機器の対応規格</th><th colspan="2">メニュー設定</th></tr>
<tr><th>HDV規格*1</th><th>DV規格</th><th>[HDV/DV選択]（52ページ）</th><th>[i.LINK DV変換]（53ページ）</th></tr>
<tr><td>HDV画像をHDVでダビング</td><td>HDV</td><td>HDV</td><td>―*3</td><td rowspan="3">[オート]</td><td>[切]</td></tr>
<tr><td>HDV画像をDVに変換してダビング</td><td>HDV</td><td>DV</td><td>DV</td><td>[入]</td></tr>
<tr><td>DV画像をDVでダビング</td><td>DV</td><td>DV</td><td>DV</td><td>[切]</td></tr>
<tr><td colspan="6">HDV規格とDV規格が混在したテープのときは</td></tr>
<tr><td>HDV、DVどちらもDVに変換してダビング</td><td>HDV/DV</td><td>DV</td><td>DV</td><td>[オート]</td><td>[入]</td></tr>
<tr><td rowspan="2">HDV規格で撮影した部分のみダビング</td><td>HDV</td><td>HDV</td><td>―*3</td><td rowspan="2">[HDV]</td><td rowspan="2">[切]</td></tr>
<tr><td>DV</td><td>―*2</td><td>―*3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">DV規格で撮影した部分のみダビング</td><td>HDV</td><td>―*2</td><td>―*2</td><td rowspan="2">[DV]</td><td rowspan="2">[切]</td></tr>
<tr><td>DV</td><td>DV</td><td>DV</td></tr>
</table>

*1 HDV1080i方式に対応している機器です。
*2 無記録部分としてダビングします（画像、音声は記録されません）。
*3 画像を認識できません（無記録状態になります）。

ご注意

- HDV規格とDV規格が混在したテープを本機から出力するときに、[HDV/DV選択]が[オート]に設定されている場合は、HDVとDVの信号が切り替わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- メニュー設定を変える前に、必ずi.LINKケーブルを抜いてください。他の機器と接続したまま[HDV/DV選択]や[i.LINK DV変換]の設定を変えると、接続した機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。
- 本機の HDV/DV（i.LINK）端子は4ピンです。接続する機器側の端子は、接続する機器に合わせてください。

ちょっと一言

- i.LINKケーブル接続時は、デジタル信号でやりとりをするので画質・音質の劣化がほとんどありません。

S映像ケーブル付きのAV接続ケーブル/AV接続ケーブルで接続するときは

* モノラル(ひとつの音声入力)の場合は、AV 接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ(左音声)または赤いプラグ(右音声)を音声入力へ接続してください。

ご注意
- AV接続ケーブルで接続するときは、[画面表示出力]を[パネル](お買い上げ時の設定)にしてください(55ページ)。
- AV接続ケーブルで接続するときは、ダビング後に再生する機器(テレビなど)に合わせて、[TVタイプ]を設定してください(53ページ)。
- AV接続ケーブルで接続して、日付データなどを表示した画像をダビングしたいときは、[画面表示出力]を[ビデオ出力/パネル]に設定してください(55ページ)。

ちょっと一言
- S映像ケーブル付きのAV接続ケーブルは、AV接続ケーブルでの接続に比べ、画像をより忠実に再現できます。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。S映像ケーブルのみを接続した場合、音声は出力されません。

次のページへつづく→

ダビングする

1 本機（再生側）の準備をする。

本機に再生用のカセットを入れ、POWERスイッチを「ON」にする。

2 本機と録画側機器を接続する。

接続について詳しくは35ページをご覧ください。

3 録画側機器の準備をする。

電源を入れて、ビデオには録画用カセット、DVDレコーダーには録画用DVDを入れる。
入力切り換えスイッチがある場合は「入力」（ビデオ1、ビデオ2入力など）にする。

4 本機で再生を始め、録画側機器で録画する。

i.LINKケーブルで接続しているときは、出力される信号の規格（HDVOUT i.LINK またはDVOUT i.LINK）が本機の画面に表示されます。

ビデオ、DVD/HDDレコーダーなどについて詳しくは、それぞれの機器の取扱説明書をご覧ください。

5 録画側機器で録画を停止する。本機のSTOP ■を押して再生を停止する。

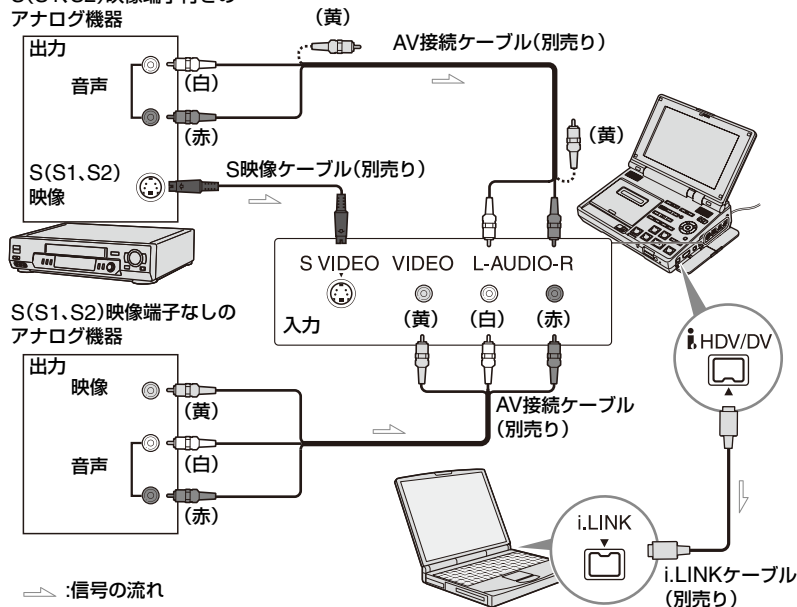
ご注意

- HDV規格の場合は、再生一時停止中の画像や変速再生している画像が i HDV/DV（i.LINK）端子から出力されません。
- i.LINKケーブルで接続したときは、次のことにご注意ください。
  - 再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。
  - 再生側と録画側の両方にHDV1080i方式対応機器を使用するとき、録画を一時停止または停止したあとで再開すると、録画される画像がスムーズにつながりません。
  - 画面表示や他機でつけたタイトルは録画されません。
  - お使いの機器やアプリケーションによっては、日時やカメラデータが表示/記録されないことがあります。
  - 映像または音声のみを記録することはできません。
- i.LINKケーブルで接続してダビングするとき、DVD/HDDレコーダー側から本機の操作が可能と説明されている機器でも操作ができない場合があります。DVD/HDDレコーダーの入出力設定を「HDV」または「DV」に切り換えるなどして映像の入出力が可能なときは、「ダビングする」の手順でダビングしてください。

ちょっと一言

- ソニー製DVDレコーダーとのi.LINKケーブル接続について詳しくは、下記のURLをご覧ください（2007年7月現在）。
http://www.sony.jp/products/i-link/

アナログ機器とパソコンを接続して使う（デジタル変換機能）DV

本機を通じて、アナログビデオ機器に録画した映像音声を、i.LINK端子を搭載したパソコンに出力します。
電源は、付属のACアダプターを使ってコンセントからとってください（9ページ）。
パソコンにはビデオ信号の取り込みができるソフトウェアをインストールしている必要があります。お使いのパソコンやソフトウェアの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 本機とアナログビデオ機器、パソコンを接続する。

2 本機のPOWERスイッチを「ON」にする。

3 MENUボタンを押す。

メニュー画面が表示されます。

4 ▲/▼ボタンで（入出力/録画設定）を選んで、EXECボタンを押す。

5 ［A/V入力→DV出力］を［入］にする。

本機の画面に A/V▶DV が表示されます。

次のページへつづく➡

6 アナログビデオ機器で再生を始める。

7 パソコンで取り込み動作を始める。

取り込むための操作は、お使いのパソコンやソフトウェアによって異なります。操作について詳しくは、お使いのパソコンやソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

8 パソコンで取り込み動作を停止し、アナログビデオ機器の再生を停止する。

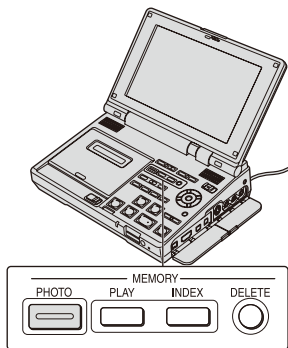
ご注意

- 本機に入力されるアナログの映像信号の状態によっては、本機からパソコンに正しい映像を出力することができないことがあります。
- 著作権保護の為の信号(ID-2方式など)が記録されている画像を本機から出力するとき、その画像を録画したり、パソコンで取り込むことはできません。

ちょっと一言

- S映像ケーブル付きのAV接続ケーブルは、AV接続ケーブルでの接続に比べ、画像をより忠実に再現できます。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。S映像ケーブルのみを接続した場合、音声は出力されません。

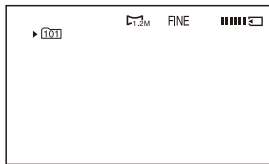
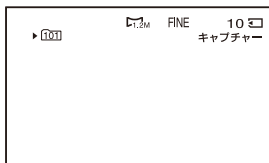
テープに録画した動画を“メモリースティック デュオ”に静止画として記録する

テープに録画された動画を“メモリースティック デュオ”に静止画として記録できます。あらかじめ録画済みのテープと“メモリースティック デュオ”を本機に入れておいてください。

1 POWERスイッチを「ON」にする。

2 PLAY ►ボタンを押す。

動画の再生が始まります。

3 記録したい場面でMEMORY PHOTOボタンを押す。

再生が一時停止し、[キャプチャー]と表示されます。画像が静止画として“メモリースティック デュオ”に記録されます。

バーのスクロール表示が消えると、記録が完了します。

ご注意

- テープに録画された日時と“メモリースティック デュオ”に取り込んだときの日時が記録されます。本機ではテープに録画されたときの日時が表示されます。テープに記録されたカメラデータは記録できません。
- 静止画の画像サイズは、動画の規格や縦横比によって、下記のようになります。
  – HDV規格の動画から取り込むとき：1.2M
  – DV規格で縦横比が16:9の動画から取り込むとき：0.2M
  – DV規格で縦横比が4:3の動画から取り込むとき：VGA（0.3M）
- [再生ズーム]を使用中は、記録できません（33ページ）。

ビデオ、DVD/HDD機器やテレビからの動画を静止画として記録するには

① 本機に記録用の“メモリースティック デュオ”を入れる。

② 「本機で録画する」（27ページ）の手順**3**と**4**を行う。

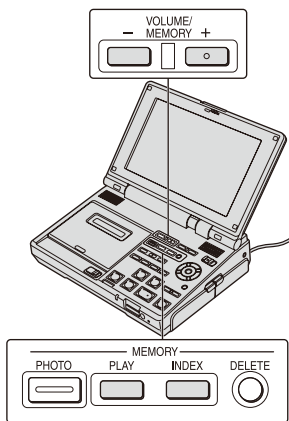
③ 接続した再生側機器で再生を始める。

④ 記録したい場面でMEMORY PHOTOボタンを押す。

ご注意

- 再生する機器によっては、本機で記録した静止画の周囲が欠けて黒くなる場合があります。

静止画を見る（メモリーフォトフォト再生）

“メモリースティック デュオ”に記録してある静止画を見ることができます。あらかじめ静止画を記録済みの“メモリースティック デュオ”を本機に入れておいてください。

1 POWERスイッチを「ON」にする。

2 MEMORY PLAYボタンを押す。

最後に記録した静止画が表示されます。

3 VOLUME/MEMORYボタン（−/＋）を押して、静止画を選ぶ。

前の静止画を見るときは、VOLUME/MEMORYボタン（−）を押す。
次の静止画を見るときは、VOLUME/MEMORYボタン（＋）を押す。

メモリーフォト再生を終了するには
MEMORY PLAYボタンをもう一度押す。

ご注意
- パソコンで加工した画像データや本機以外で“メモリースティック デュオ”に記録された静止画は、正しく再生できないことがあります。
- ディレクトリ構造がDCF規格に準拠していないと、ディレクトリ番号は表示されず、ファイル名のみ表示される場合があります。

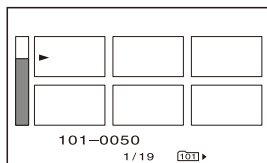
ちょっと一言
- 再生中の静止画を拡大して表示することができます。詳しくは33ページをご覧ください。
- あらかじめ本機をテレビに接続しておくと、テレビの画面で静止画を見ることができます（19ページ）。

画像を6枚ずつ表示する（インデックス表示）

静止画を6枚ずつ表示できます。画像を検索するときなどに便利です。

1 POWERスイッチを「ON」にする。

2 MEMORY INDEXボタンを押す。

最後に表示していた静止画の上に赤色の▶が表示されます。

▶マークはVOLUME/MEMORYボタン（−/＋）で移動できます。

前の6枚を表示するには、▶マークを左上の画像に移動させて、VOLUME/MEMORYボタン(－)を押す。
次の6枚を表示するには、▶マークを右下の画像に移動させて、VOLUME/MEMORYボタン(＋)を押す。

ご注意
- インデックス表示中の各静止画右上の番号は、"メモリースティック デュオ"への記録順を示す番号です。データファイル名(45ページ)とは異なります。
- パソコンで加工した画像データや本機以外で"メモリースティック デュオ"に記録された静止画は、インデックス表示できないことがあります。

1枚の表示(シングル表示)に戻すには

VOLUME/MEMORY(－/＋)ボタンで▶マークを1枚で表示したい画像に移動させて、MEMORY PLAYボタンを押す。

インデックス表示を終了するには

もう一度MEMORY INDEXボタンを押す。

パソコンに"メモリースティック デュオ"の静止画を取り込む USB

本機とパソコンを接続して、"メモリースティック デュオ"内の静止画を取り込むことができます。

パソコン環境について

Windowsをお使いの場合

- 対応OS:Windows 2000 Professional/Windows Millennium Edition/Windows XP Home Edition/Windows XP Professional/Windows Vista*
  *64bit 版は除きます。
  上記のOSが工場出荷時にインストールされていることが必要です。
  上記のOSでもアップグレードした場合は動作保証いたしません。
- CPU:MMX Pentium 200MHz以上
- その他必要な装置:USB端子標準装備

Macintoshをお使いの場合

- 対応OS:Mac OS 9.1/9.2/Mac OS X(v10.1/v10.2/v10.3/v10.4)
- その他必要な装置:USB端子標準装備

ちょっと一言
- パソコンの標準ドライバで動作するので、ソフトウェアのインストールは不要です。
- パソコンにメモリースティック スロットがある場合は、静止画を保存した"メモリースティック デュオ"をメモリースティック デュオ アダプター(別売り)に入れてから、パソコンのメモリースティック スロットに差し込んで、静止画を取り込むこともできます。
- "メモリースティック PRO デュオ"をお使いの際にパソコンが"メモリースティック PRO デュオ"に対応していない場合は、パソコンのメモリースティック スロットを使用せずに本機をUSBケーブルで接続してください。

次のページへつづく→

操作1：USBケーブルで接続する

1 パソコンの電源を入れる。

使用中のアプリケーションは、終了させておいてください。

Windows 2000/ Windows XP/ Windows Vistaをお使いの場合
Administrator権限・コンピューターの管理者でログオンしてください。

2 本機に“メモリースティック デュオ”を入れる。

3 付属のACアダプターを本機とコンセントに接続する（9ページ）。

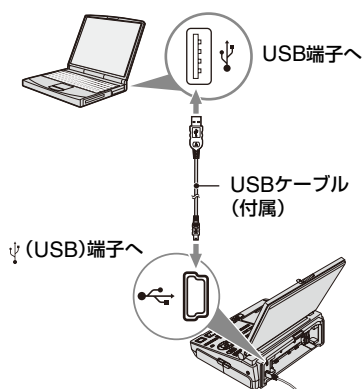
4 本機のPOWERスイッチを「ON」にする。

5 MENUボタンを押す。

メニュー画面が表示されます。

6 （その他）→[USB機能選択]→[パソコン接続メモリースティック]の順に選ぶ（60ページ）。

7 USBケーブルで本機とパソコンの（USB）端子を接続する。

初回はパソコンが本機を認識するのに時間がかかることがあります。

ご注意

- USBケーブルで接続する場合、端子の向きを確認して接続してください。無理に押し込むと端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。
- 本機の電源を入れる前に、本機とパソコンをUSBケーブルで接続すると、本機がパソコンに認識されない場合があります。

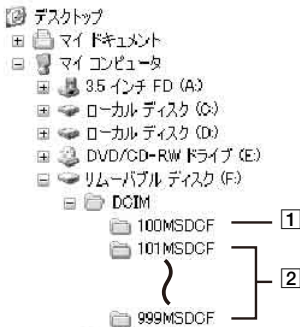
推奨する接続方法

本機を正しく動作させるためには、次のように接続してください。

- パソコンのUSB端子にUSBケーブルで本機を接続し、他のUSB端子には何も接続しない。
- USBキーボードとマウスが標準でついているパソコンの場合、キーボードをUSB端子に接続した状態で、本機をUSBケーブルで別のUSB端子に接続する。
- 1台のパソコンに2台以上のUSB機器を接続した場合の動作は保証していません。
- USBケーブルは、必ずパソコンのUSB端子に接続してください。キーボードやUSBハブなどを経由して接続している場合の動作は保証していません。
- パソコンのUSB端子にUSBケーブルが接続していることを確認してください。
- 推奨環境のすべてのパソコンについての動作を保証するものではありません。

操作2:静止画を取り込む

Windowsパソコンのとき

[マイコンピュータ]内に表示される[リムーバブルディスク]アイコンをダブルクリックし、フォルダ内の画像をパソコンのハードディスクへコピーする。

1 フォルダ作成機能がない他のビデオカメラレコーダーで記録した静止画が入っているフォルダ(再生のみ可能)

2 本機の画像フォルダ(新しくフォルダを作成していない場合は[101MSDCF]のみ)

フォルダ名	ファイル名	意味
101MSDCF (~999MSDCF)	DSC0□□ □□.JPG	静止画 ファイル

ファイル名の□□□□には、0001~9999までの数字が入ります。

Macintoshのとき

ドライブアイコンをダブルクリックし、取り込みたい画像ファイルをコンピュータのハードディスクアイコンにドラッグ&ドロップする。

ご注意

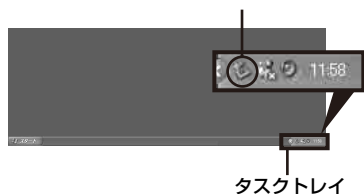
- コンピュータでフォーマットした“メモリースティック デュオ”を使用した場合やUSB接続時に本機内の“メモリースティック デュオ”をコンピュータからフォーマットした場合は動作保証いたしません。
- “メモリースティック デュオ”内のデータを圧縮しないでください。圧縮されたデータは本機で使用できなくなります。
- コンピュータで加工した画像を本機に取り込む場合、または本機の画像を直接加工した場合、画像形式が異なるためファイルエラー表示が出たりファイルが開けない場合があります。
- コンピュータがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

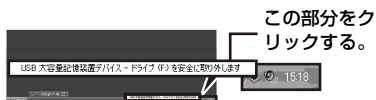
USBケーブルを抜く

Windowsパソコンのとき

本機の画面に[USB接続中]と表示されたときは、次のようにUSBケーブルを抜いてください。

① パソコンの画面右下にあるタスクトレイの中の、[ハードウェアの安全な取り外し]アイコンをクリックする。

次のページへつづく➡

パソコンに"メモリースティック デュオ"の静止画を取り込む(つづき)

② [USB 大容量記憶装置デバイスードライブを安全に取り外します(停止します)]をクリックする。

③ [OK]をクリックする。

④ 本機とパソコンから USB ケーブルを抜く。

本機の画面に[USB接続中]と表示されていないときは、手順④のみ行ってください。

Macintoshのとき

① 使用中のアプリケーションを終了させる。

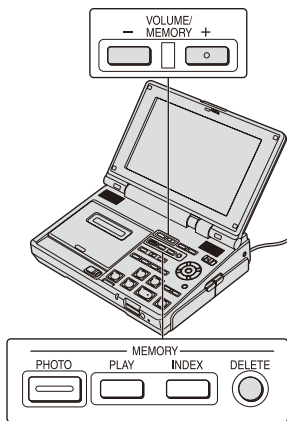
② コンピュータの画面にあるドライブアイコンを[ゴミ箱]にドラッグ&ドロップする。

③ 本機とパソコンから USB ケーブルを抜く。

ご注意

- 正しい手順でUSBケーブルを抜かないと、"メモリースティック デュオ"内のファイルが正常に更新されない場合があります。また"メモリースティック デュオ"の故障の原因になります。
- 本機のアクセスランプが点灯中はUSBケーブルを抜かないでください。
- 本機の電源を切るときは、本機からUSBケーブルを抜いてから切ってください。
- Mac OS Xをお使いの場合は、コンピュータの電源を切ってからUSBケーブルを抜き、本機から"メモリースティック デュオ"を取り出してください。

"メモリースティック デュオ"の静止画を消す

不要になった静止画を消去できます。あらかじめ"メモリースティック デュオ"を本機に入れておいてください(15ページ)。

1 POWERスイッチを「ON」にする。

2 消去したい画像を再生する(42ページ)。

3 MEMORY DELETEボタンを押す。

[この画像を削除しますか?]と表示されます。

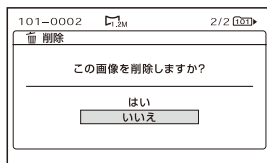
4 ↑/↓ボタンで、[はい]を選び、EXECボタンを押す。

画像が消去されます。

ご注意

- いったん消去した画像は元に戻せません。
- "メモリースティック デュオ"が誤消去防止になっているとき(72ページ)やプロテクトされている画像は消去できません。

ちょっと一言

- インデックス表示している画像を消すには、VOLUME/MEMORYボタン(－/＋)で▶マークを消去したい画像に移動してから手順**3**と**4**を行ってください。
- "メモリースティック デュオ"内すべての静止画、もしくは選択したフォルダ内すべての静止画を消去するには、[全消去](58ページ)を行います。

記録した静止画を印刷する

(PictBridge 対応プリンター) USB

PictBridge対応のプリンターを使うと、"メモリースティック デュオ"に記録した静止画をパソコン無しで印刷できます。

PictBridge

本機の電源は、付属のACアダプターを使ってコンセントからとってください(9ページ)。あらかじめプリンターの電源を入れ、静止画を記録した"メモリースティック デュオ"を本機に入れておいてください。

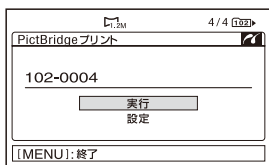
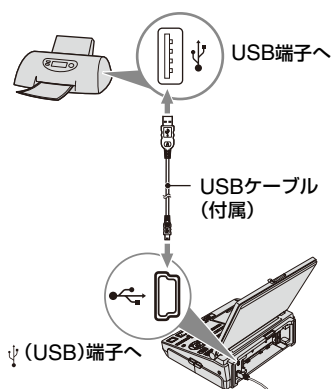
本機とプリンターを接続する

1 本機のPOWERスイッチを「ON」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニュー画面が表示されます。

3 (その他)→[USB機能選択]→[PictBridge プリント]の順に選ぶ(60ページ)。

4 USBケーブルで本機とプリンターの(USB)端子を接続する。

"メモリースティック デュオ"に記録されている画像が表示されます。

印刷する

1 VOLUME/MEMORYボタン(−/+)を押して印刷する画像を選ぶ。

2 必要な場合は印刷部数を設定する。

印刷部数を設定しない場合は手順**3**に進む(印刷部数は1部に自動設定されます)。

① [設定]→[印刷部数]を選んで、EXECボタンを押す。

② ↑/↓ボタンで印刷部数を設定し、EXECボタンを押す。
印刷部数は最大20枚まで設定できます。

③ [戻る]を選んで、EXECボタンを押す。

3 日時を入れて印刷する場合は以下の設定をする。

日時を入れない場合は手順**4**に進む。

① [設定]→[日時/時刻]→[年月日]または[日時分]を選んで、EXECボタンを押す。

② [戻る]を選んで、EXECボタンを押す。

4 [実行]→[はい]の順に選んで、EXECボタンを押す。

印刷が完了すると[プリント中です]の表示が消え、画像選択画面に戻ります。
印刷終了後、MENUボタンを押す。

ご注意

- PictBridge規格未対応機器との接続は動作保証いたしません。
- プリンターの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- プリンターと接続中(画面に が表示中)に次の操作をすると、正常な処理が行われません。
  – POWERスイッチを「OFF(CHG)」にする。
  – 本機またはプリンターからUSBケーブルを抜く。
  – 本機から"メモリースティック デュオ"を取り出す。
- プリンターが動作しなくなった場合は、USBケーブルを抜いてプリンターの電源を入れ直してから、操作をやり直してください。
- プリンターによっては、画像の上下左右が切れる場合があります。特に画像がワイド(16:9)のときは、左右が大きく切れる場合があります。

- プリンターによっては、日時印刷に対応していないものがあります。プリンターの取扱説明書をご覧ください。
- 本機以外の機器で記録した画像の印刷に関しては保証いたしません。

ちょっと一言

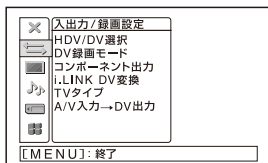
- PictBridge（ピクトブリッジ）とは、カメラ映像機器工業会（CIPA）で制定された統一規格のことです。メーカーや機種に関係なく、ビデオカメラやデジタルスチルカメラを直接プリンターに接続し、パソコンを使わずに画像を印刷できます。

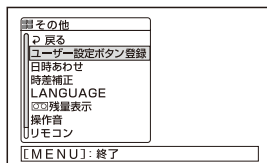
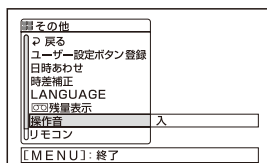
メニューの使いかた

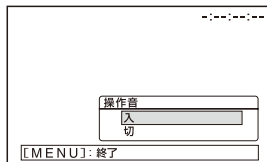
画面に表示されるメニューで、お好みの設定やより細かい設定ができます。

1 POWERスイッチを「ON」にする。

2 MENUボタンを押す。

メニュー画面が表示されます。

3 ↑/↓ボタンでメニューのマークを選び、EXECボタンを押して決定する。

入出力/録画設定(52ページ)
表示設定(54ページ)
音声設定(57ページ)
メモリー設定(58ページ)
その他(60ページ)

4 ↑/↓ボタンで設定する項目を選び、EXECボタンを押して決定する。

選択できない項目は暗く表示されます。
→ボタンを押して設定する項目を決定することもできます。
[戻る]を選ぶか、←ボタンを押すと1つ前の階層に戻ります。

5 希望の設定を選び、EXECボタンを押して決定する。

6 MENUボタンを押して、メニュー画面を消す。

メニュー一覧

（入出力/録画設定）メニュー（52ページ）

項目	ページ
HDV/DV選択	52
DV録画モード (DV)	52
コンポーネント出力	52
i.LINK DV変換	53
TVタイプ	53
A/V入力→DV出力	39

（表示設定）メニュー（54ページ）

項目	ページ
パネル設定	54
DVワイド表示 (DV)	55
画面表示出力	55
カラーバー	55
DVカラーバー (DV)	56
データコード	56

（音声設定）メニュー（57ページ）

項目	ページ
DV音声モード (DV)	57
バイリンガル	57
DV音声ミックス (DV)	57

（メモリー設定）メニュー（58ページ）

項目	ページ
画質	58
全消去	58
フォーマット	58
ファイルナンバー	59
フォルダ作成	59
記録フォルダ選択	59
再生フォルダ選択	59

（その他）メニュー（60ページ）

項目	ページ
ユーザー設定ボタン登録	32
日時あわせ	13
時差補正	60
LANGUAGE	60
残量表示	60
操作音	60
リモコン	60
USB機能選択	60

⇆（入出力/録画設定）メニュー

録画、入出力に関する設定（HDV/DV選択/DV録画モード/TVタイプなど）

▶は、お買い上げ時の設定。
（　）内の表示が画面に出ます。
操作方法は50ページをご覧ください。

MENUボタンを押す → ↑/↓ボタンで ⇆（入出力/録画設定）を選ぶ → EXECボタンを押す。

HDV/DV 選択

再生するときの信号を選びます。通常は[オート]に設定してください。
i.LINKケーブル接続時は HDV/DV（i.LINK）端子から入力/出力する信号を選びます。ここで選択した信号をテープに記録/再生します。

▶オート
テープ再生時、自動でHDV/DV規格の信号を切り換えて、再生する。
i.LINK接続時は、自動でHDV/DV規格の信号を切り換えて、HDV/DV（i.LINK）端子から入出力して、記録/再生する。

HDV（HDV1080i）
テープ再生時、HDV規格で記録された部分のみ再生する。
i.LINK接続時は、HDV規格の信号のみを HDV/DV（i.LINK）端子から入出力して、記録/再生する。また、パソコンなどと接続する。

DV（DV）
テープ再生時、DV規格で記録された部分のみ再生する。
i.LINK接続時は、DV規格の信号のみを HDV/DV（i.LINK）端子から入出力して、記録/再生する。また、パソコンなどと接続する。

ご注意
- 設定を変える前に、必ずi.LINKケーブルを抜いてください。接続したまま設定を変えると、接続した機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。
- [オート]を選ぶと、HDVとDVの信号が切り替わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- [i.LINK DV変換]が[入]になっているときは、次の信号が出力されます。
  - [オート]のときは、HDV信号はDVに変換され、DV信号はそのまま出力されます。
  - [HDV]のときは、HDV信号はDVに変換され、DV信号の部分は出力されません。
  - [DV]のときは、DV信号はそのまま出力され、HDV信号の部分は出力されません。

DV 録画モード DV

DV規格で録画するときに選択できます。

▶SP（SP）
テープへSP（標準）モードで録画する。

LP（LP）
テープへSPモードの1.5倍の長時間録画する。

ご注意
- LPモードで録画したテープを他機で再生すると、モザイク状のノイズが現れたり、音声が途切れたりすることがあります。
- テープの途中でSP/LPモードを切り換えると、画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。

コンポーネント出力

D端子のあるテレビと接続するときに選択できます。

D1
D1/D2端子があるテレビと接続するときに選ぶ。

▶D3
D3/D4/D5端子があるテレビと接続するときに選ぶ。

i.LINK DV 変換

HDV規格の信号をDV規格に変換して HDV/DV（i.LINK）端子から出力します。

▶切

［HDV/DV選択］の設定に従って、HDV/DV（i.LINK）端子から信号を出力する。

入

HDV/DV（i.LINK）端子から出力される信号は、HDV規格の場合はDV変換され、DV規格の場合はそのままDV規格で出力する。

ご注意

- i.LINK入力については、［HDV/DV選択］をご覧ください（52ページ）。
- 設定を変える前に、必ずi.LINKケーブルを抜いてください。接続したまま設定を変えると、接続した機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。

TV タイプ

テレビで見るときに、使用するテレビにあわせて信号の変換が必要です。出力した画像は下記のように表示されます。

▶16:9

ワイドテレビで再生するときに選ぶ。

HDV規格画像
DV（16:9）規格画像　**DV（4:3）規格画像**

4:3

4:3テレビで再生するときに選ぶ。

HDV規格画像
DV（16:9）規格画像　**DV（4:3）規格画像**

ご注意

- HDV/DV（i.LINK）端子からの出力には無効です。
- ID-1対応テレビやテレビのS（S1、S2）映像入力端子に接続して再生する場合、［TVタイプ］を［16:9］に設定してください。テレビが自動的に再生画像の比率に切り替わります。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- ［TVタイプ］の設定を変えても、DV規格のカラーバーの縦横比は［DVカラーバー］（56ページ）の設定が優先されます。

A/V 入力 →DV 出力

39ページをご覧ください。

(表示設定)メニュー

画面の表示設定(パネル設定/カラーバー/データコードなど)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は50ページをご覧ください。

MENUボタンを押す → ↑/↓ボタンで (表示設定)を選ぶ → EXECボタンを押す。

パネル設定

液晶画面の表示状態をお好みで設定できます。設定を変えても録画される画像に影響はありません。

■ 明るさ

←/→ボタンで液晶画面の明るさを調節できます。

ちょっと一言
- 液晶画面を消すこともできます(31ページ)。
- LCD BRIGHTボタンでも調節できます(16ページ)。

■ コントラスト

←/→ボタンで液晶画面のコントラストを調節できます。

■ 色のこさ

←/→ボタンで液晶画面の濃さを調節できます。

■ 色相

←/→ボタンで液晶画面の色あいを調節できます。

■ シャープネス

←/→ボタンで画像の輪郭を強調または柔らかくできます。

■ パネルプロファイル

液晶画面の設定内容をパネルプロファイルとして本機に6つまで保存できます。保存した設定を使って適切な液晶画面の状態をすばやく再現できます。

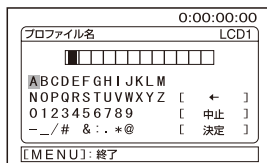
読み込み

パネルプロファイルを読み込んで、設定を実行します。
① [読み込み]を選ぶ。
② 読み込むパネルプロファイルを選ぶ。
③ 確認画面で[はい]を選択する。
選択したパネルプロファイルが反映される。

保存

現在の設定をパネルプロファイルとして保存します。
① [保存]を選ぶ。
② [新規保存]、または既存のプロファイル名を選ぶ。
③ 確認画面で[はい]を選ぶ。
パネルプロファイルが保存される。
- [新規保存]した場合は、プロファイル名は[LCD1]～[LCD6]になります。
- 既存のパネルプロファイルを保存先に選んだ場合は、上書き保存されます。

プロファイル名

保存したパネルプロファイルの名前を変更できます。
① [プロファイル名]を選ぶ。
② 名前を変えるパネルプロファイルを選ぶ。
プロファイル名画面になる。

③ ↑/↓/←/→ボタンで文字を選択し、EXECボタンを押して決定する。この操作を繰り返してプロファイル名を入力する。
- 12文字までの名前をつけられます。

- 使用できる文字
  – A～Z
  – 0～9
  – – _ / # & : . * @

④ [決定]を選び、EXECボタンを押して決定する。
プロファイル名が変更される。

削除

パネルプロファイルを削除します。

① [削除]を選ぶ。
② 削除するパネルプロファイルを選ぶ。
③ 確認画面で[はい]を選択する。
パネルプロファイルが削除される。

リセット

[パネル設定]をお買い上げ時の設定に戻します。

① [リセット]を選ぶ。
② 確認画面で[はい]を選択する。
[パネル設定]の各項目がお買い上げ時の設定に戻る。

- 保存したパネルプロファイルは、[リセット]を行ってもそのまま保持されます。

ちょっと一言

- パネルプロファイルで保存される項目は[明るさ]、[コントラスト]、[色のこさ]、[色相]、[シャープネス]の設定値です。これらの設定値をまとめてパネルプロファイルに保存します。
- [読み込み]、[プロファイル名]、[削除]を選択しているとき、保存されたパネルプロファイルにカーソルをあわせると、そのプロファイルの設定内容が画面に反映されます。
- 保存されたパネルプロファイルにカーソルをあわせて➡ボタンを押すと、そのプロファイルの設定内容が表示されます。

DV ワイド表示 DV

本機の画面に表示されるDV規格の画像の縦横比（アスペクト比）を切り換えます。

▶オート

自動的に画像の縦横比を切り換える。

ワイド(←→)

画像の縦横比をワイド（16:9）で表示する。

4:3(→←)

画像の縦横比を4:3で表示する。

ご注意

- 静止画とHDV規格の画像を再生しているときは、縦横比を切り換えることはできません。
- カラーバー表示中に[DVワイド表示]の設定を[ワイド]または[4:3]にすると、←→または→←が表示されますが、画像の縦横比は切り替わりません。
- 動画を静止画として"メモリースティック デュオ"に記録するとき、記録される静止画はDVワイド表示機能の影響を受けないため、画面上の表示と記録される静止画の縦横比が異なる場合があります。
- 本機から出力される画像は、DVワイド表示機能の影響を受けません。

画面表示出力

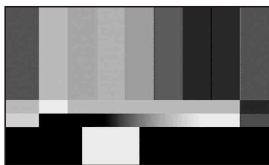
▶パネル

タイムコードなどの画面表示を液晶画面に出す。

ビデオ出力/パネル

画面表示をテレビ画面や液晶画面に出す。

カラーバー

[入]にするとカラーバーを表示したり、テープに記録することができます（お買い上げ時の設定は[切]）。本機で録画した画像をテレビやモニターで見る場合、カラーバーを見ながら色味を調節するときに便利です。

ご注意

- 本機の電源を入れ直すか、REW ◀◀/PLAY ▶/FF ▶▶ボタンを押すと自動的に[切]になります。

DV カラーバー (DV)

DV規格のカラーバーの縦横比(アスペクト比)を切り換えます。

▶16:9

カラーバーの縦横比を16:9にする。

4:3

カラーバーの縦横比を4:3にする。

ご注意

- 録画中に設定を変更することはできません。

データコード

撮影時に自動的に記録された情報(日時)を再生時に表示できます。

▶**切**

日時を表示しない。

日付データ

日付、時刻を表示。

ご注意

- [日付データ]は、日時、時刻を設定せずに撮影すると、[---- -- --]と[--:--:--]が表示されます。

♪♪(音声設定)メニュー

録音に関する設定(DV音声モード/DV音声ミックスなど)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は50ページをご覧ください。

MENUボタンを押す → ⬆/⬇ボタンで ♪♪(音声設定)を選ぶ → EXECボタンを押す。

DV 音声モード DV

▶12BIT
12ビット(2つのステレオ音声)で記録する。

16BIT(♪16b)
16ビット(高音質で1つのステレオ音声)で記録する。

ご注意
- HDV規格のときは、自動的に[16BIT]で記録されます。

バイリンガル

他機で二重音声(またはステレオ音声)で記録したテープを、本機で再生するときの音声が選べます。

▶切
主＋副音声(またはステレオ音声)で再生する。

メイン
主音声(または左音声)で再生する。

サブ
副音声(または右音声)で再生する。

ご注意
- 本機は二重音声を再生できますが、記録はできません。

DV 音声ミックス DV

他機でアフレコや4CHマイク録音したテープの音声を再生時に確認できます。アフレコしたテープの再生時に、出力される音声を選びます。

▶ST1
撮影時の音声のみを出力するときに選ぶ。

ミックス
撮影時の音声とアフレコ音声を合成して出力するときに選ぶ。

ST2
アフレコした音声のみを出力するときに選ぶ。

ご注意
- DV音声モードが16ビットで記録されたテープでは、バランス調節できません。

(メモリー設定)メニュー

"メモリースティック デュオ"に関する設定(画質/全消去など)

▶は、お買い上げ時の設定。
( )内の表示が画面に出ます。
操作方法は50ページをご覧ください。

MENUボタンを押す → ↑/↓ボタンで (メモリー設定)を選ぶ → EXECボタンを押す。

画質

▶ **ファイン(FINE)**
高画質で記録する。

スタンダード(STD)
標準の画質で記録する。

"メモリースティック デュオ"の容量(MB)と記録可能枚数(枚)

	1.2M 1440×810	VGA 640×480	0.2M 640×360
64MB	100	390	490
	240	980	980
128MB	205	780	980
	490	1970	1970
256MB	370	1400	1750
	890	3550	3550
512MB	760	2850	3600
	1800	7200	7200
1GB	1550	5900	7300
	3650	14500	14500
2GB	3150	12000	15000
	7500	30000	30000
4GB	6300	23500	29500
	14500	59000	59000
8GB	12500	48000	60000
	30000	115000	115000

上段は画質が[ファイン]のとき
下段は画質が[スタンダード]のとき

静止画の画像サイズは、動画の規格や縦横比によって、下記のようになります。
– HDV規格の動画から取り込むとき:1.2M
– DV規格で縦横比が16:9の動画から取り込むとき:0.2M
– DV規格で縦横比が4:3の動画から取り込むとき:VGA(0.3M)

ご注意
- ソニー製"メモリースティック デュオ"使用時。枚数は、記録条件や記録メディアによって変わります。

全消去

プロテクトのかかっていない"メモリースティック デュオ"内または選択フォルダ内の全画像を消去します。

① [全ファイル]か[フォルダ内]を選ぶ。
[全ファイル]:"メモリースティック デュオ"内のすべての画像を消去。
[フォルダ内]:選択しているフォルダ内のすべての画像を消去。

② [はい]→[はい]を選ぶ。
[全消去中です]と表示される。プロテクトのかかっていないすべての画像が消去されると、[完了しました]と表示される。

ご注意
- 誤消去防止スイッチのある"メモリースティック デュオ"は、誤消去防止を解除する(72ページ)。
- 全消去しても、フォルダは消去されません。
- [全消去中です]が表示されているとき、次の操作はしないでください。
  – POWERスイッチ/ボタン操作
  – "メモリースティック デュオ"の取り出し

フォーマット

"メモリースティック デュオ"に記録した画像をすべて削除して、記録容量を元に戻し、再び書き込み可能にします。
フォーマットを実行するには[はい]→[はい]の順に選ぶ。

ご注意

- ［ フォーマット中です］が表示されているとき、次の操作はしないでください。
  – POWERスイッチ/ボタン操作
  – "メモリースティック デュオ"の取り出し
- 新しく作成したフォルダやプロテクトのかかっている画像もすべて消去されます。

ちょっと一言

- お買い上げ時の"メモリースティック デュオ"はフォーマット済みのため、新たにフォーマットする必要はありません。

ファイルナンバー

▶連番

"メモリースティック デュオ"を取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。フォルダを新しく作成、または記録先フォルダを変更した場合はリセットされる。

リセット

本機に入れた"メモリースティック デュオ"に存在している、最大ファイル番号の次の番号を付ける。

フォルダ作成

［はい］を選ぶと"メモリースティック デュオ"内に、新フォルダ（102MSDCF〜999MSDCFまで）を作成できます。1つのフォルダ内の静止画ファイルが9,999枚になると、自動的に新フォルダを作成します。

ご注意

- 1度作成した新フォルダは、本機で削除できません。"メモリースティック デュオ"をフォーマットするか（58ページ）、パソコンなどで削除してください。
- フォルダが増えると、"メモリースティック デュオ"の残容量が減ることもあります。

記録フォルダ選択

↑/↓ボタンで静止画ファイルを記録するフォルダを選んでEXECボタンを押す。

ちょっと一言

- お買い上げ時の設定では、静止画ファイルは「101MSDCF」に記録されます。
- いったん画像を記録すると、そのとき選ばれている記録先フォルダが、再生フォルダに設定されます。

再生フォルダ選択

↑/↓ボタンで静止画ファイルを再生するフォルダを選んでEXECボタンを押す。

(その他)メニュー

各種基本設定(操作音/USB機能選択など)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は50ページをご覧ください。

MENUボタンを押す → ↑/↓ボタンで (その他)を選ぶ → EXECボタンを押す。

ユーザー設定ボタン登録

32ページをご覧ください。

日時あわせ

13ページをご覧ください。

時差補正

海外で使うときは、↑/↓/EXECボタンで時差を設定し、現地時刻に合わせる。時差を0に設定すると元の設定に戻ります。

LANGUAGE

▶日本語
メニュー項目などの画面表示やお知らせメッセージを日本語で表示する。

ENGLISH
メニュー項目などの画面表示やお知らせメッセージを英語で表示する。

ENG[SIMP]
メニュー項目などの画面表示やお知らせメッセージを簡易英語で表示する。

残量表示

▶オート
次のときにテープ残量を約8秒間表示する。
- カセットが入った状態で電源を入れたとき
- PLAY ►ボタンまたはDISPLAY/BATT INFOボタンを押したとき

入
テープ残量を常に表示する。

操作音

▶入
メニューの操作時などにメロディが鳴る。

切
操作音を出さない。

リモコン

本機に付属のリモコン、または他のソニー製品に付属しているリモコンで本機を操作できます。

▶VTR2
本機に付属のリモコン、または他のソニー製品に付属しているリモコンコードがVTR2のリモコンで本機を操作できる。

VTR4
他のソニー製品に付属しているリモコンコードがVTR4のリモコンで本機を操作できる。

切
リモコンによる操作ができません。他の機器のリモコンによる誤動作を防げる。

USB 機能選択

USBケーブルで本機とパソコンを接続して、"メモリースティック デュオ"内の画像を取り込んだり(43ページ)、PictBridge対応のプリンターと接続する(47ページ)ときに使います。

▶パソコン接続メモリースティック
"メモリースティック デュオ"に記録した画像をパソコンで見たり、パソコンに取り込むときに選択する。

PictBridge プリント
本機とPictBridge対応のプリンターを直接つないで、プリントするときに選択する(47ページ)。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

全体操作/リモコン

電源が入らない、途中で切れる。

- 充電されたバッテリーを取り付ける（9ページ）。
- ACアダプターをコンセントに接続する（9ページ）。

電源が入っているのに操作できない。

- 電源（バッテリーまたはACアダプターの電源コード）を取りはずし、約1分後に電源を取り付け直す。
- RESET（リセット）ボタン（84ページ）を先のとがったもので押す。

本体があたたかくなる。

- 本機使用中に本体があたたかくなることがありますが、故障ではありません。

ワイヤレスリモコンで操作できない。

- リモコンに合わせて［リモコン］の設定を変える（60ページ）。
- リモコンと本機のリモコン受光部の間にある障害物を取り除く。
- 本機のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていると、リモコン操作できないことがある。
- 電池を交換する。電池の＋極と－極を正しく入れる（87ページ）。

リモコン操作中にほかのビデオが誤動作する。

- ビデオのリモコンスイッチをVTR2以外のモードに切り換える。
- 黒い紙でビデオのリモコン受光部をふさぐ。

バッテリー/電源

バッテリーの充電中、POWER/CHARGEランプが点灯しない。

- POWERスイッチを「OFF（CHG）」にする（9ページ）。
- バッテリーを正しく取り付け直す（9ページ）。
- コンセントにプラグを正しく差し込む。
- すでに充電が完了している（9ページ）。

バッテリーの充電中、POWER/CHARGEランプが点滅する。

- バッテリーを正しく取り付け直す（9ページ）。それでも点滅するときは、故障のおそれがあるため、コンセントからプラグを抜き、ソニーの相談窓口に問い合わせる（裏表紙）。

バッテリー残量が正しく表示されない。

- 周囲の温度が極端に高い/低い、または充電が不充分。故障ではありません。
- 満充電し直す。それでも正しく表示されないときは、寿命のため、新しいバッテリーに交換する（9、74ページ）。

- 使用状況や環境によっては正しく表示されません。液晶画面を開閉したときは正しい残量時間を表示するまで約1分かかります。

バッテリーの消耗が早い。

- 周囲の温度が極端に高い/低い、または充電が不充分。故障ではありません。
- 満充電し直す。それでも消耗が早いときは、寿命のため、新しいバッテリーに交換する（9、74ページ）。

液晶画面

メニュー項目が灰色で表示される。

- その録画/再生条件では選択できません。

液晶画面に画像が残る。

- 電源を入れた状態でバッテリーを取りはずしたり、DCプラグを抜いたためで、故障ではありません。

画像や画面表示が表示されない。

- 液晶画面を消している。LCD ON/OFFボタンを押す（31ページ）。
- 画面表示が非表示になっている。DISPLAY/BATT INFOボタンを押す（31ページ）。

カセット/"メモリースティック デュオ"

カセットが取り出せない。

- 電源（バッテリーやACアダプター）が正しく接続されているか確認する（9ページ）。
- 本機が結露しかけている（76ページ）。

カセットメモリー付きカセットで、カセットメモリー表示やタイトル表示が出ない。

- 本機は、カセットメモリーに対応していないため、表示されません。

テープ残量表示が出ない。

- 常に表示させたいときは、[OO 残量表示]を[入]にする（60ページ）。

テープの画像を削除できない。

- テープの画像は削除できません。新たに撮影する場合は、テープを巻き戻し、録画を開始すると上書きで記録される。

"メモリースティック デュオ"の画像を消去、または全消去できない。

- プロテクトが設定されている。パソコンなどでプロテクトを解除する。

"メモリースティック デュオ"に記録できない。

- メモリーの容量がいっぱいの場合は、不要な画像を消す（46ページ）。
- 本機で"メモリースティック デュオ"をフォーマットし直すか（58ページ）、別の"メモリースティック デュオ"を入れる（15ページ）。

再生

「カセット/"メモリースティック デュオ"」（62ページ）もご覧ください。

テープ再生ができない。

- POWERスイッチを「ON」にする。
- テープを巻き戻す（17ページ）。
- テープを入れ直す（14ページ）。

“メモリースティック デュオ”の画像データが正しく再生できない。

- パソコンでフォルダやファイル名を変更、または画像加工すると、再生できない場合があります（ファイル名が点滅）。故障ではありません（73ページ）。
- 他機で記録した画像は、正しく再生できないことがあります。故障ではありません。

データファイル名が正しくない、または点滅している。

- ファイルが壊れている。
- 本機で対応しているファイル形式を使う（72ページ）。

画像に横線が入る、画像がぼけたり、映らなかったりする。

- ビデオヘッドが汚れている。別売りのクリーニングカセットできれいにする（77ページ）。

他機で4CHマイク記録した音声が聞こえない。（DV）

- [DV音声ミックス]を設定する（57ページ）。

音声が小さい。または聞こえない。

- 音量を大きくする（16ページ）。
- [バイリンガル]を[切]にする（57ページ）。
- [DV音声ミックス]を設定する（57ページ）。
- S映像プラグまたはコンポーネントビデオケーブルだけで接続しているため。AV接続ケーブルの白と赤のプラグもあわせて接続する（22ページ）。

画像や音声が途切れる。

- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、故障ではありません。

再生画像が一時停止する、音声が途切れる。

- テープやビデオヘッドに付着物があるときに起こる症状です（77ページ）。
- ソニー製のミニDVカセットを使用する。

[-:--:--:--]が表示される。

- 日付時刻を設定しないで録画したテープを再生している。
- テープの無記録部分を再生している。
- テープに傷やノイズがあると、日時を読めません。

日付サーチが正しく操作できない。

- 日付を変更したときは、2分以上撮影する。撮影時間が短いと正しく検出されない場合があります。
- テープの始めや途中に無記録部分があると、日付サーチが正しく働かないことがあります。

エンドサーチができない。

- 録画後にカセットを取り出さない（29ページ）。
- カセットを入れてからエンドサーチするまでに、1度も録画していない。
- テープの始めや途中に無記録部分があるためで、故障ではありません。

エンドサーチのときに画像が出ない。

- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、故障ではありません。

他機でアフレコした音声が聞こえない。（DV）

- [DV音声ミックス]を[ST1]（オリジナルテープ音声）側から最適な音声になるまで調節する（57ページ）。

画面上に♪4ch-12bが表示される。

- 他機で4CHマイク記録されたテープを再生しているときに表示されます。本機は4CHマイク記録には対応していません。

録画

RECボタンを押しても、録画できない。

- POWERスイッチを「ON」にする（13ページ）。
- テープが最後まで行っている。巻き戻すか、新しいカセットを入れる。
- カセットの誤消去防止ツマミをRECにする。または新しいカセットを入れる（71ページ）。
- 結露でテープがヘッドドラムに貼り付いている。カセットを取り出して、約1時間してから入れ直す（76ページ）。

テレビ接続

i.LINKケーブルでテレビに接続して再生するとき、画像や音声が出ない。

- 接続するテレビのi.LINK端子がHDV1080i方式に対応していない場合は、HD（ハイビジョン）画質で見ることはできません（19ページ）。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- HDV規格で録画した映像をダウンコンバートしてDV（SD画質）で再生する（53ページ）。
- 他の接続ケーブルで接続して再生する（19ページ）。

S映像プラグでテレビに接続して再生するとき、音声が出ない。

- S映像プラグだけで接続しているため。AV接続ケーブルの白と赤のプラグもあわせて接続する（23ページ）。

D端子コンポーネントビデオケーブルでテレビに接続して再生するとき、画像や音声が出ない。

- 接続する機器に合わせて［コンポーネント出力］を正しく設定する（52ページ）。
- D端子コンポーネントビデオケーブルだけで接続しているため。AV接続ケーブルの白と赤のプラグも合わせて接続する（20、21ページ）。

HDMIケーブルでテレビに接続して再生するとき、画像や音声が出ない。

- 著作権保護のための信号が記録されている映像を、HDMI OUT端子から出力することはできません。
- i.LINKでDV入力された画像（25ページ）を出力することはできません。
- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、HDMIケーブルを抜き差しするか本機の電源を入れ直す。

4:3テレビに接続して再生したら、画像がつぶれて見える。

- ワイド（16:9）で録画したテープを4:3テレビで見るときに起こる現象で、［TVタイプ］を設定して再生する（53ページ）。

4:3テレビに接続して再生したら上下に黒い帯が入る。

- ワイド（16:9）で録画したテープを4:3テレビで見るときに起こる現象で、故障ではありません。

ダビング/編集/外部機器接続

接続した機器（外部入力）からの画像が拡大できない。

- 外部入力している画像は本機でズームできません（33ページ）。

接続した機器の画面にタイムコードなどが表示される。

- AV接続ケーブルを使って接続するときは、メニューの[画面表示出力]を[パネル]にする(55ページ)。

AV接続ケーブルを使ってダビングができない。

- AV接続ケーブルが正しく接続されていない。AV接続ケーブルが他機の入力端子へ接続されているか確認する。

ダビング編集中、i.LINKケーブルを接続しているのに、モニターに画像が出ない、または画像が乱れる。

- 接続する機器に合わせて[HDV/DV選択]を正しく設定する(52ページ)。
- 接続する機器がHDV1080i方式に対応していない場合は、HD(ハイビジョン)画質でダビングできません(35ページ)。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- [i.LINK DV変換]を[入]に設定し(53ページ)、SD(スタンダード)画質でダビングする。

追加録音(アフレコ)できない。

- 本機ではアフレコすることはできません。

HDMIケーブルを使ってダビングができない。

- HDMIケーブルを使ってのダビングはできません。

テープから"メモリースティック デュオ"へ静止画を取り込めない。

- 繰り返しダビングしているなど記録状態の悪いテープは、録画できなかったり、乱れた画像が記録されたりすることがあります。

i.LINKケーブルを使ってワイド(16:9)で記録した画像を再生し、出力した画面が縦に伸びる。

- i.LINKケーブルを使うと、画像の縦横比(アスペクト比)の設定は出力できません。テレビ側で設定する。
- AV接続ケーブルを使って接続し、[TVタイプ](53ページ)を設定する。

パソコンとの接続

本機がパソコンに認識されない。 USB i.LINK

- パソコンと本機からケーブルを抜き、もう一度しっかりと差し込む。
- キーボード、マウス以外で、パソコンのUSB端子に接続されている他の機器を取りはずす。
- パソコンと本機からケーブルを抜き、パソコンを再起動させてから、正しい手順でもう一度パソコンと本機を接続する。

テープの動画がパソコンで見られない、取り込めない。i.LINK

- 動画はUSBケーブルでは取り込めないため、i.LINKケーブルで接続する。
- i.LINKケーブルを抜き、本機の電源を入れてから、もう一度接続する。
- テープの動画をパソコンに取り込むには編集ソフトウェア(別売り)が必要です。以下のホームページをご覧ください。
  http://www.sony.co.jp/cam/support/

"メモリースティック デュオ"の画像がパソコンで見られない、取り込めない。USB

- "メモリースティック デュオ"の向きを確かめて、本機に奥までしっかりと入れる。
- i.LINKケーブルでは取り込めないため、USBケーブルで接続する。

次のページへつづく➡

- ［USB機能選択］を［パソコン接続メモリースティック］にする（60ページ）。
- テープ再生中や編集中など、本機を操作していると“メモリースティック デュオ”はパソコンに認識されません。本機の操作を終了してから、もう一度パソコンと接続する。
- キーボード、マウス、本機以外で、パソコンのUSB端子に接続されている他の機器を取りはずす。

パソコンがハングアップする。

- 接続する機器に合わせて、［HDV/DV選択］を正しく設定する（52ページ）。
- パソコンと本機からケーブルを抜き、パソコンを再起動してから正しい手順でもう一度パソコンと本機を接続する（45ページ）。

警告表示とお知らせメッセージ

自己診断表示/警告表示

液晶画面に、次のように表示されます。お客様自身で対応できる場合でも、2、3回繰り返しても正常に戻らないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

C:□□:□□（自己診断表示）

C:04:□□

- "インフォリチウム"以外のバッテリーが使われている。必ず"インフォリチウム"バッテリーを使う（74ページ）。
- ACアダプターのDCプラグを本機のDC IN端子にしっかりつなぐ（9ページ）。

C:21:□□

- 結露している。カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す（76ページ）。

C:22:□□

- ビデオヘッドが汚れている。別売りのクリーニングカセットできれいにする（77ページ）。

C:31:□□/C:32:□□

- 上記以外の症状になっている。カセットを入れ直し、もう一度操作し直す。ただし、本機が結露気味のときは、この操作をしないでください（76ページ）。
- 電源をいったん取りはずし、取り付け直してからもう一度操作し直す。
- カセットを交換する。RESET（リセット）ボタン（84ページ）を押してからもう一度操作し直す。

101-1001（ファイル関連の警告）

- ファイルが壊れている。
- 扱えないファイル（73ページ）。

（バッテリー残量に関する警告）

- バッテリー残量が少ない。
- 使用状況や環境、バッテリーパックによっては、バッテリー残量が約5～10分でも警告表示が点滅することがあります。

（結露の警告）*

- カセットを取り出し、電源をはずして、カセット入れを開けたまま、約1時間放置する（76ページ）。

（テープ関連の警告）

遅い点滅

- テープ残量が5分を切った。
- カセットが入っていない。*
- カセットが誤消去防止状態になっている（71ページ）。*

速い点滅

- テープが終わっている。*

≜（テープを取り出す必要がある警告）*

遅い点滅

- カセットが誤消去防止状態になっている（71ページ）。

速い点滅

- 結露している（76ページ）。
- 自己診断表示が表示されている（67ページ）。

（"メモリースティック デュオ"関連の警告）

- "メモリースティック デュオ"が入っていない（15ページ）。

困ったときは

次のページへつづく→

(“メモリースティック デュオ”フォーマット関連の警告)*

- “メモリースティック デュオ”が壊れている。
- “メモリースティック デュオ”が正しくフォーマットされていない(58、72ページ)。

(非対応“メモリースティック デュオ”関連の警告)*

- 本機では使えない“メモリースティック デュオ”を入れた(72ページ)。

(“メモリースティック デュオ”誤消去防止に関する警告)*

- “メモリースティック デュオ”が誤消去防止状態になっている(72ページ)。

* 警告表示が出るときに、「操作音」が鳴ります(60ページ)。

お知らせメッセージの説明

お知らせメッセージが表示されたときは、その指示に従ってください。

■ 結露

⏏結露しています
カセットを取り出してください
(76ページ)

結露しています
約1時間放置してください(76ページ)

■ カセット/テープ

⏏カセットを入れなおしてください(14ページ)

- テープの損傷などがないかも確認する。

⏏カセットの誤消去防止ツマミを確認してください(71ページ)

■ “メモリースティック デュオ”

メモリースティックを入れなおしてください(15、72ページ)

- “メモリースティック デュオ”を2、3回入れ直す。それでも表示されるときは“メモリースティック デュオ”が壊れている可能性があるので交換する。

このメモリースティックはフォーマットが違います

- “メモリースティック デュオ”のフォーマットを確認し、必要ならば本機でフォーマットする(58、72ページ)。

メモリースティックのフォルダがいっぱいです

- 作成できるフォルダは、999MSDCFまでです。本機でフォルダ消去はできません。
- フォーマットするか(58ページ)、パソコンで不要なフォルダを消去する。

■ PictBridge対応プリンター

接続先を確認してください

- プリンターの電源を入れ直し、USBケーブルをいったん抜いてからもう一度接続する。

異常が確認されました　中止してください

- プリンターの電源を入れ直し、USBケーブルをいったん抜いてからもう一度接続する。

■ その他

非対応のフォーマットです

- 対応していないフォーマットのため、再生できません。

この“HDV/DV選択”設定では表示できない信号です　表示するには設定を変更してください

- 再生や信号入力を停止するか、[HDV/DV選択]設定を変更してください(52ページ)。

⊗ ヘッドが汚れています　クリーニングカセットを使ってください
(77ページ)

海外で使う

電源について

本機は、海外でも使えます。
付属のACアダプターは、全世界の電源（AC100V～240V、50/60Hz）で使えます。また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国や地域では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねのうえ、ご用意ください。
電子式変圧器（トラベルコンバーター）は使わないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

HDV規格で記録した再生画像をHDV規格で見るには HDV1080i

HDV規格で記録した再生画像をHDV規格で見るには、HDV1080i方式対応のテレビ（またはモニター）とコンポーネントビデオケーブル、AV接続ケーブルが必要です。HDV1080i方式に対応している主な国、地域は、「テレビ方式がNTSCの国、地域」を参照してください。

DV規格で記録した再生画像をDV規格で見るには DV

DV規格で記録した再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式で、映像/音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）と接続ケーブルが必要です。

テレビ方式がNTSCの国、地域（五十音順）

アメリカ合衆国、エクアドル、エルサルバドル、ガイアナ、カナダ、キューバ、グアテマラ、グアム、コスタリカ、コロンビア、サモア、スリナム、セントルシア、大韓民国、台湾、チリ、ドミニカ、トリニダード･トバゴ、ニカラグア、日本、ハイチ、パナマ、バミューダ、バルバドス、フィリピン、プエルトリコ、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、ホンジュラス、ミクロネシア、ミャンマー、メキシコ など

時差補正機能について

海外で使うときは、[時差補正]で時差を設定するだけで、時刻を現地時間に合わせられます（60ページ）。

使用上のご注意とお手入れ

HDV規格と記録・再生について

本機は、HDV規格とDV規格の両方の記録機能を搭載したビデオカセットレコーダーです。本機は、ミニDVカセットのみ使えます。
Mini DV マーク付きカセットをご使用ください。
本機ではソニー製ミニDVカセットを使用することをおすすめします。
本機は、カセットメモリー機能には非対応です。

HDV規格とは

DVカセットにデジタルハイディフィニション（HD）映像の記録・再生ができるように開発されたビデオ方式です。
本機では、有効走査線数1,080本のインターレース方式（1080i、画素数1,440×1,080ドット）を採用しています。
記録時の映像ビットレートは約25Mbpsです。
デジタルインターフェースにi.LINKを採用し、HDVに対応するテレビやパーソナルコンピューターとのデジタル接続が可能です。

- HDV映像信号の圧縮方式は、BSデジタルや地上デジタルのハイビジョン放送、ブルーレイディスクレコーダーなどで採用されているMPEG2方式です。

再生について

HDV規格の1080i方式とDV規格の両方を再生できます。
本機ではHDV規格の720/30pで記録した画像を再生できますが、i.LINK端子（i HDV/DV（i.LINK）端子）から出力することはできません。

無記録部分を作らないために

テープを再生したときは、次の録画の前にエンドサーチ（29ページ）を行って、録画終了位置に戻します。

著作権保護信号について

■ **再生するとき**

本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、他機を接続して本機の画像を記録するとき、記録が制限されることがあります。

■ **記録するとき**

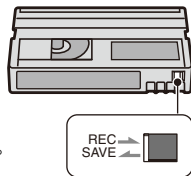
著作権保護のための信号が記録されている映像音声は、本機で記録することはできません。このような映像音声を記録しようとすると、液晶画面に[コピープロテクトされています　記録できません]と表示されます。なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

取り扱い上のご注意

■ **長い間使わないときは**

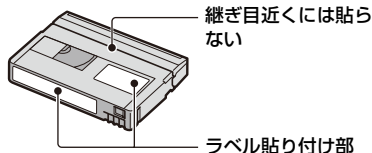
本機からカセットを取り出して保管してください。

■ **間違って消さないために**

カセットの背にある誤消去防止ツマミをSAVEの矢印のほうへずらします。

REC：録画できる。
SAVE：録画できない。
（誤消去防止状態）

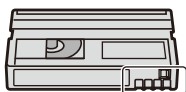
その他

■ ラベルは指定の位置に

カセットにラベルは、指定の位置に正しく貼ってください。指定以外の位置に貼ると故障の原因になります。

■ カセットの使用後は

必ずテープを巻き戻してください（画像や音声が乱れる原因となります）。巻き戻したテープはケースに入れ、立てて保管してください。

■ 金メッキ端子のお手入れ

カセットの金メッキ端子が汚れたり、ゴミが付着したりすると、テープ残量表示などが正しく表示されないことがあります。カセットの取り出し回数10回を目安にして、綿棒でカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。

“メモリースティック”について

“メモリースティック”（“Memory Stick”）は小さくて軽い大容量のIC記録メディアです。
“メモリースティック”のうち、本機で使えるのは次の表のとおりです。ただし、すべての“メモリースティック”の動作を保証するものではありません。

“メモリースティック”の種類	記録/再生
メモリースティック デュオ（マジックゲート非対応）	○
メモリースティック デュオ（マジックゲート対応）	○*
マジックゲート メモリースティック デュオ	○
メモリースティック PRO デュオ	○*

* 高速データ転送に対応した“メモリースティック デュオ”です。転送速度はお使いになる機器により異なります。

- 本機はマジックゲート機能を使ったデータの記録/再生に対応していません。“マジックゲート”とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。
- 本機は“メモリースティック マイクロ”（“M2”）に対応しています。“M2”は“メモリースティック マイクロ”の略称です。
- 静止画の圧縮形式：本機は、静止画データをJPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮/記録しています。ファイル拡張子は「.JPG」です。
- パソコン（Windows OS/Mac OS）でフォーマット（初期化）した“メモリースティック デュオ”は、本機での動作を保証いたしません。
- お使いの“メモリースティック デュオ”と機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。
- 使用可能な“メモリースティック”の最新情報についてはホームページ上の「メモリースティック対応表」をご確認ください（裏表紙）。
- 誤消去防止スイッチ付き“メモリースティック デュオ”では、先の細いものでスライドさせて、「LOCK」にすると、記録されているデータを誤って消去しないようにできます。
- 次の場合、画像ファイルが破壊されることがあります。破壊された場合、内容の補償については、ご容赦ください。
  – 画像ファイルを読み込み中や、“メモリースティック デュオ”にデータを書き込み中（アクセスランプが点灯中および点滅中）に、“メモリースティック デュオ”を取り出したり、本機の電源を切ったりした場合

– 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使った場合
- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどへバックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- "メモリースティック デュオ"本体およびメモリースティック デュオ アダプターにラベルなどは貼らないでください。
- 持ち運びや保管の際は、"メモリースティック デュオ"に付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲みこむおそれがあります。
- メモリースティック デュオ スロットには、"メモリースティック デュオ"以外は入れないでください。故障の原因となります。
- 次の場所での使用や保管は避けてください。
  – 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  – 直射日光のあたる場所
  – 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

■ メモリースティック デュオ アダプターの使用について

- "メモリースティック デュオ"を"メモリースティック"対応機器でお使いの場合は、必ず"メモリースティック デュオ"をメモリースティック デュオ アダプターに入れてからお使いください。
- "メモリースティック デュオ"をメモリースティック デュオ アダプターに入れるときは、正しい挿入方向をご確認のうえ、奥まで差し込んでください。差し込みかたが不充分だと正常に動作しない場合があります。また、逆向きで無理に入れると、メモリースティック デュオ アダプターが破損し、故障の原因となります。
- メモリースティック デュオ アダプターに"メモリースティック デュオ"が装着されない状態で、"メモリースティック"対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

■ "メモリースティック PRO デュオ"についてのご注意

- 本機で動作確認されている"メモリースティック PRO デュオ"は8GBまでです。
- 本機はパラレルインターフェースを利用した高速データ通信には対応していません。

■ "メモリースティック マイクロ"使用上のご注意

- "メモリースティック マイクロ"を本機でお使いの場合は、必ず"メモリースティック マイクロ"をデュオサイズのM2アダプターに入れてからお使いください。デュオサイズのM2アダプターに装着されていない状態で挿入されると、"メモリースティック マイクロ"が取り出せなくなる可能性があります。
- "メモリースティック マイクロ"は、小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。

画像の互換性について

- 本機は（社）電子情報技術産業協会にて制定された統一規格"Design rule for Camera File system"に対応しています。
- 統一規格に対応していない機器（DCR-TRV900、DSC-D700/D770）で記録された静止画像は本機では再生できません。
- 他機で使用した"メモリースティック デュオ"が本機で使えないときは、58ページの手順にしたがい、本機でフォーマット（初期化）をしてください。フォーマットすると"メモリースティック デュオ"に記録してあるデータはすべて消去されますので、ご注意ください。
- 次の場合、正しく画像を再生できないことがあります。
  – パソコンで加工した画像データ
  – 他機で撮影した画像データ

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーについて

本機は"インフォリチウム"バッテリー(Lシリーズ/Mシリーズ)のみ使用できます。それ以外のバッテリーは使えません。"インフォリチウム"バッテリーLシリーズには InfoLITHIUM L マークが、Mシリーズには InfoLITHIUM M マークがついています。

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーとは?

"インフォリチウム"バッテリーは、本機や別売りのACアダプター/チャージャーとの間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
"インフォリチウム"バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。
別売りのACアダプター/チャージャーを使うと、使用可能時間や充電終了時間も計算して表示します。

充電について

- 本機を使う前には、必ずバッテリーを充電してください。
- 周囲の温度が10〜30℃の範囲で、POWER/CHARGEランプが消えるまで充電することをおすすめします。これ以外では効率の良い充電ができないことがあります。
- 充電終了後は、ACアダプターを本機のDC IN端子から抜くか、バッテリーを取りはずしてください。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が10℃未満になるとバッテリーの性能が低下するため、使える時間が短くなります。安心してより長い時間使うために、次のことをおすすめします。
  – バッテリーをポケットなどに入れてあたたかくしておき、録画の直前に本機に取り付ける。
  – 高容量バッテリー「NP-QM71D/QM91D/F770/F970(別売り)」を使う。
- 液晶画面の使用や再生/早送り/巻き戻しなどを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
  高容量バッテリー「NP-QM71D/QM91D/F770/F970(別売り)」のご使用をおすすめします。
- 本機で録画または再生中は、こまめにPOWERスイッチを切るようにしましょう。録画一時停止状態や再生一時停止中でもバッテリーは消耗しています。
- 録画には予定録画時間の2〜3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し録画をしましょう。
- バッテリーは防水構造ではありません。ぬらさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

- バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、再び満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし、長時間高温で使ったり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。録画時間の目安として使ってください。
- バッテリー残量時間が約5〜10分でも、ご使用状況や周囲の温度環境によっては、バッテリー残量が残り少なくなったことを警告するマークが点滅することがあります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、カセットを入れずに電源が切れるまで、POWERスイッチを「ON」の状態にしてください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

i.LINK（アイリンク）について

本機の i HDV/DV（i.LINK）端子はi.LINKに準拠した端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接接続された機器だけでなく、他の機器を介して接続されている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ご注意

- i.LINKケーブルで本機と接続できる機器は通常1台だけです。複数接続できるHDV/DV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
- IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、次の3種類があります。

S100（最大転送速度　約100Mbps*）
S200（最大転送速度　約200Mbps）
S400（最大転送速度　約400Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。
最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbps とは？

「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のi.LINK端子付きビデオと接続してダビングする方法については35ページをご覧ください。
また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK対応機器（パーソナルコンピューターVAIOシリーズなど）とも接続してご使用になれます。

なお、デジタルテレビ、DVD、MICROMV、HDVなどの映像機器には、i.LINK端子を搭載しながらも、本機とは対応できない仕様のものがあります。接続の際はあらかじめHDV/DV対応の有無をご確認ください。
接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。

ご注意

- i.LINK端子を持つ機器と本機をi.LINK接続する場合は、あらかじめ機器の電源を切って電源プラグをコンセントから抜いた状態で、i.LINKケーブルを抜き差ししてください。

必要なi.LINKケーブル

ソニー製i.LINKケーブルを使ってください。
4ピン↔4ピン(HDV/DVダビング時)

x.v.Color(エックスブイ・カラー)について

- x.v.Colorとは、xvYCC規格の親しみやすい呼称としてソニーが提案している商標です。
- xvYCC規格とは、動画色空間の国際規格のひとつです。現行の放送などで使われている規格より広い色彩が表現できます。

本機の取り扱いについて

使用や保管場所について

使用中、保管中にかかわらず、次のような場所に置かないでください。

- 異常に高温、低温または多湿になる場所
  炎天下や熱器具の近く、夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動や強力な磁気のある場所
  故障の原因になります。
- 強力な電波を出す場所や放射線のある場所
  正しく録画できないことがあります。
- TV、ラジオやチューナーの近く
  雑音が入ることがあります。
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  砂がかかると故障の原因になるほか、修理できなくなることもあります。
- 液晶画面が太陽に向いたままとなる場所(窓際や室外など)
  液晶画面を傷めます。

■ 長時間使用しないときは

- 3分間ほど再生するなどして、ときどき電源を入れてください。
- バッテリーは使い切ってから、保管してください。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、[⏏結露しています カセットを取り出してください]または[結露しています 約1時間放置してください]と警告表示が出ます。

■ 結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、EJECTつまみ以外は働きません。
電源を切ってカセット入れを開けたまま、結露がなくなるまで(約1時間)放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押しても や⏏が点滅しなければ使えます。
結露気味のときは、本機が結露を検出できないことがあります。このようなときは、カセット入れを開けてから約10秒間カセットが出てこないことがありますが、故障ではありません。
カセットが出てくるまでカセット入れを閉めないでください。

■ **結露が起こりやすいのは**

次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

■ **結露を起こりにくくするために**

本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ビデオヘッドについて

HDV規格で記録したテープを再生すると、まれに再生中の画像と音声が一瞬(約0.5秒)停止することがあります。
テープやビデオヘッドに付着物があるなどしてHDV規格の信号をテープに正しく記録、再生できなかったときに起こる現象で、カセットによってはごくまれに、新品またはご利用期間が短いにもかかわらず発生することがあります。
再生時に起きたときは、テープを少し送って巻き戻すと問題なく見ることができる場合がありますが、記録時に起きたときは、その部分を修復することはできません。
このような事態を予防するためにもソニー製ミニDVカセットのご使用をおすすめします。

- 以下のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットを10秒間再生してビデオヘッドをきれいにしてください。
  - 再生画面の一部が動かない。
  - 再生画像が出ない。
  - 音声が途切れる。
  - 録画中に[⊗ ヘッドが汚れています クリーニングカセットを使ってください]と表示される。
  - HDV規格のときに以下の現象が起こる。

再生画像が一時停止する

再生画像が消える

  - DV規格のときに以下の現象が起こる。

四角いノイズが出る

再生画像が消える

- ビデオヘッドは長時間使うと摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

液晶画面について

- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。
- 寒い場所でご使用になると、画像が尾を引いて見えることがありますが、異常ではありません。
- 使用中に液晶画面のまわりが熱くなりますが、故障ではありません。

次のページへつづく➡

■ お手入れ

液晶画面に指紋やゴミが付いて汚れたときは、柔らかい布などで拭いてください。別売りの液晶クリーニングキットを使うときは、クリーニングリキッドを直接液晶画面にかけず、必ずクリーニングペーパーに染み込ませて使ってください。

本機表面のお手入れについて

- 汚れのひどいときは、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。
- 本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、次のことは避けてください。
  - シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、殺虫剤、日焼け止めのような化学薬品類。
  - 上記が手に付いたまま本機を扱う。
  - ゴムやビニール製品との長時間接触。

内蔵の充電式電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切と関係なく保持するために、充電式電池を内蔵しています。充電式電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使用する時間が短いと徐々に放電し、**3か月**近くまったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使ってください。ただし、充電式電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使えます。

■ 充電方法

本機を付属のACアダプターを使ってコンセントに接続するか、充電されたバッテリーを取り付け、POWERスイッチを「OFF（CHG）」にして24時間以上放置する。

“メモリースティック デュオ”を廃棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による「フォーマット」や「削除」では、“メモリースティック デュオ”内のデータは完全には消去されないことがあります。廃棄/譲渡の際は、“メモリースティック デュオ”本体を物理的に破壊するか、市販のパソコンによるデータ消去専用ソフトなどを使って“メモリースティック デュオ”内のデータを完全に消去することをおすすめします。

主な仕様

システム

録画方式（HDV）	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録画方式（DV）	回転2ヘッドヘリカルスキャン
静止画記録方式	Exif Ver.2.2*
録音方式（HDV）	回転ヘッド MPEG-1 Audio Layer2 16ビット Fs48kHz（ステレオ） 転送レート 384kbps
録音方式（DV）	回転ヘッド、PCMシステム 12ビット Fs32kHz （ステレオ1、ステレオ2） 16ビット Fs48kHz（ステレオ）
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式 1080/60i方式
使用可能カセット	Mini DV マークのついたミニDVカセット
テープ速度（HDV）	約18.81mm/秒
テープ速度（DV）	SP：約18.81mm/秒 LP：約12.56mm/秒
録画/再生時間（HDV）	60分（DVM60使用時）
録画/再生時間（DV）	SP：60分（DVM60使用時） LP：90分（DVM60使用時）
早送り、巻き戻し時間	バッテリー使用時： 約2分40秒（DVM60使用時） ACアダプター使用時： 約2分40秒（DVM60使用時）

* （社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画用のファイルフォーマット。

入/出力端子

S VIDEO IN端子	4ピンミニDIN 輝度信号：1Vp-p、75Ω 色信号：0.286Vp-p、75Ω
VIDEO IN端子	ピンジャック 1Vp-p、75Ω
AUDIO IN端子	ピンジャック（L、R） 500mV、インピーダンス47kΩ以上
A/V OUT端子	10ピン特殊コネクター 映像：1Vp-p、75Ω Y出力　1Vp-p、75Ω C出力　0.286Vp-p、75Ω 音声：500mV（47kΩ負荷時）、出力インピーダンス2.2kΩ以下
COMPONENT OUT端子	D1/D3映像：コンポーネントビデオ端子 Y：1Vp-p、75Ω PB/PR、CB/CR：±350mV、75Ω
HDMI OUT端子	タイプA（19ピン）
i HDV/DV端子	i.LINK（IEEE1394　4ピンコネクター　S100）
USB端子	mini-B
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック （ø 3.5mm）

液晶画面

画面サイズ	17.8cm（7.0型）
使用液晶パネル	TFT液晶パネル
総ドット数	384 000ドット 横800×縦480

電源部、その他

電源電圧	バッテリー端子入力7.2V DC端子入力8.4V
消費電力	液晶画面使用時： HDV記録時 6.1W DV記録時 6.1W HDV再生時 6.5W DV再生時 6.3W 液晶画面を閉じて使用時： HDV記録時 3.6W DV記録時 3.6W HDV再生時 4.0W DV再生時 3.8W
動作温度	0℃～40℃
保存温度	−20℃～+60℃
外形寸法	201×64×163mm （最大突起部含む）（幅×高さ×奥行き）
本体質量	約1.2kg

次のページへつづく➡

スピーカー	ダイナミックスピーカー
付属品	8ページをご覧ください。

ACアダプター AC-L100

電源	AC100V - 240V、50Hz/60Hz
消費電力	18W
定格出力	DC8.4V *
動作温度	0℃~40℃
保存温度	-20℃~+60℃
外形寸法	48×29×81mm (最大突起部含む)(幅×高さ×奥行き)
質量	約170g

* その他の仕様については AC アダプターのラベルをご覧ください。

リチャージャブルバッテリーパック NP-F570

最大電圧	DC8.4V
公称電圧	DC7.2V
容量	15.8Wh(2 200mAh)
最大外形寸法	38.4×20.6×70.8mm (幅×高さ×奥行き)
質量	約100g
使用温度	0℃~40℃
使用電池	Li-ion

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入と記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。
このデジタルHDビデオカセットレコーダーは国内仕様です。海外で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスとその費用については、ご容赦ください。

アフターサービス

■ 調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな?と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

■ それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。

■ 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■ 部品の保有期間について

当社はデジタルHDビデオカセットレコーダーの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

■ 部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

安全のために

→2ページもあわせてお読みください。

⚠警告

下記の注意事項を守らないと、**火災、大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理はソニーの相談窓口にご依頼ください。

内部に水や異物（金属類や燃えやすい物など）を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取りはずしてください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、ソニーの相談窓口にご相談ください。

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、再生をしたり、液晶画面を見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

電池を正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。

機器本体や付属品、記録メディアは乳幼児の手の届く場所に置かない

電池などの付属品や"メモリースティック"などを飲み込むおそれがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

次のページへつづく➡

⚠注意

火災

感電

下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

禁止

火災や感電の原因になることがあります。

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中のバッテリーや製品に長時間ふれない

禁止

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。

ぬれ手禁止

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

禁止

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、重ねたりすると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

電池や付属品、記録メディア、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

指示

電池や"メモリースティック"などが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。

コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブル、AV接続ケーブルなどは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけががの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。

指示

ヘッドホンを使用するような場合、大音量で長時間つづけて聞かない

禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。呼びかけられたら返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがややけど、火災などを避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険

- バッテリーパックは指定されたバッテリーチャージャー以外で充電しない。
- 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。
- 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。
- 電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体で濡らさない。濡れた電池を充電したり、使用したりしない。

禁止

⚠警告

- 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。
- 乾電池、ボタン電池は充電しない。
- 外装シールをはがしたり、傷つけたりしない。外装シールの一部または、すべてをはがしてある電池や破れのある電池は絶対に使用しない。

禁止

⚠注意

- 電池は、+、−を確かめ、正しく入れる。
- 電池を使い切ったときや、長期間使用しない場合は機器から取りはずしておく。

指示

- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池は混ぜて使わない。

禁止

お願い

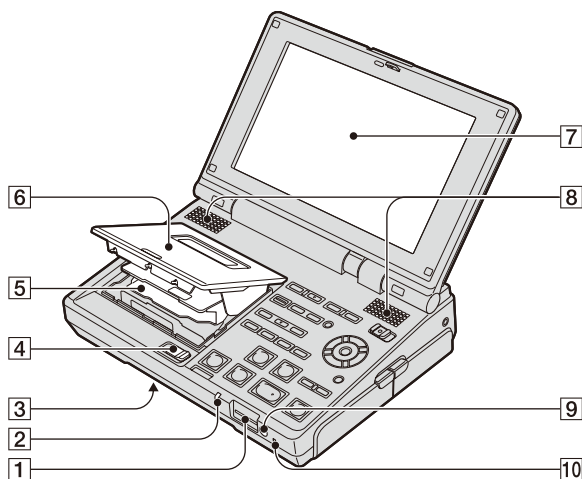
リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部分にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については

有限責任中間法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
を参照してください。

Li-ion
リチウムイオン電池

各部のなまえ

(　)内は参照ページです。

1 メモリースティック デュオ スロット(15)

2 メモリースティック デュオ アクセスランプ(15)

3 RESET(リセット)ボタン(本体底面)
RESET(リセット)ボタンを押すと、日時を含めすべての設定が解除されます。ただし、パネルプロファイルで設定した内容は解除されません。

4 EJECT つまみ(14)

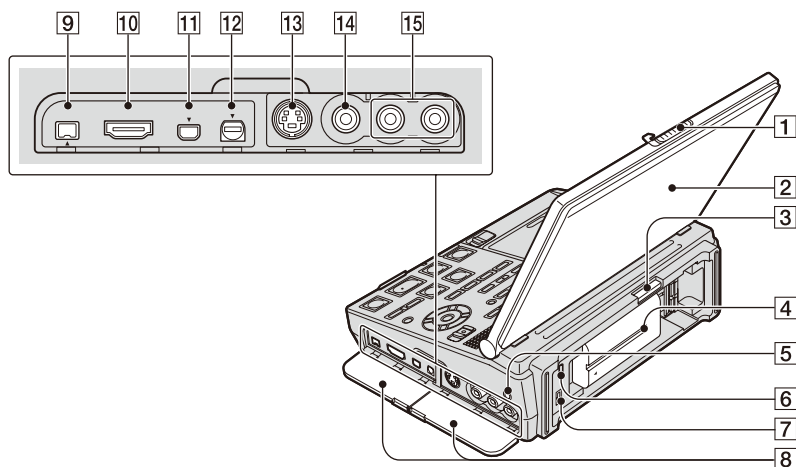
5 カセット入れ(14)

6 カセットカバー(14)

7 液晶画面(13)

8 ステレオスピーカー(16)

9 リモコン受光部(87)

10 POWER/CHARGE ランプ(10、13)

1 OPEN ━► レバー（13）

2 液晶パネル（13）

3 ▲ BATT RELEASE ボタン（11）

4 バッテリーパック（9）

5 ∩（ヘッドホン）端子
ステレオミニプラグ付きのヘッドホンを使ってください。ヘッドホンを使うとスピーカーから音は出ません。

6 ψ（USB）端子（43、47）

7 DC IN 端子（9）

8 端子カバー（19、25、35）

9 i HDV/DV（i.LINK）端子（19、25、35）

10 HDMI OUT 端子（19）

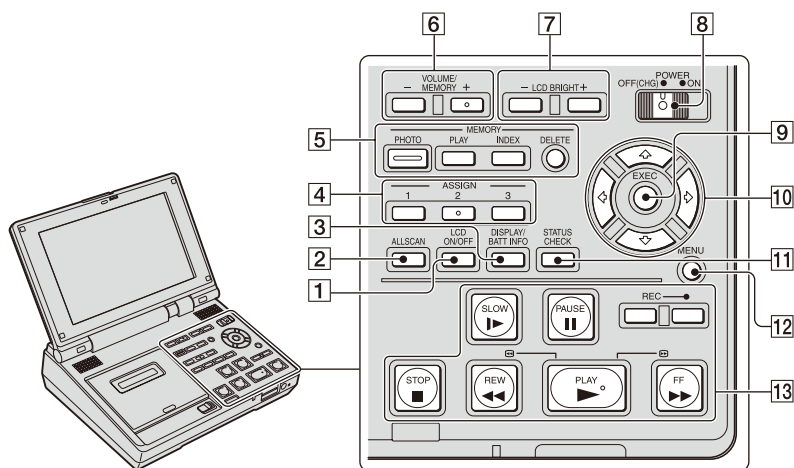
11 COMPONENT OUT 端子（19）

12 A/V OUT 端子（19、25、35）

13 S VIDEO IN 端子（25）

14 VIDEO IN 端子（25）

15 AUDIO IN 端子（L（左）/R（右））（25）

次のページへつづく➡

1 LCD ON/OFF ボタン（31）

2 ALLSCAN ボタン（32）

3 DISPLAY/BATT INFO ボタン（11、31）

4 ASSIGN ボタン（1/2*/3）（32）

5 メモリー操作ボタン（PHOTO ボタン・PLAY ボタン・INDEX ボタン・DELETE ボタン）（41、42、46）

6 VOLUME/MEMORY ボタン *（16、42）

7 LCD BRIGHT ボタン（16）

8 POWER スイッチ（13）

9 EXEC ボタン（50）

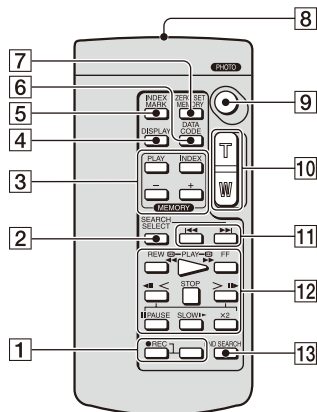
10 ↑/↓/←/→ ボタン（50）

11 STATUS CHECK ボタン（31）

12 MENU ボタン（50）

13 ビデオ操作ボタン（PLAY ► ボタン*・REW ◄◄ ボタン・FF ►► ボタン・PAUSE ❚❚ ボタン・STOP ■ ボタン・SLOW ❙► ボタン・REC ボタン）（16、27）

* PLAY ► ボタン、VOLUME/MEMORY ボタン（＋）、ASSIGN ボタン 2 に凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

ワイヤレスリモコン

1 REC ボタン(27)

2 SEARCH SELECT ボタン(29、30)

3 メモリー操作ボタン(PLAY ボタン、INDEX ボタン、− / ＋ボタン)(42)

4 DISPLAY ボタン(31)

5 INDEX MARK ボタン(34)

6 DATA CODE ボタン(56)

7 ZERO SET MEMORY ボタン(28)

8 リモコン発光部

9 PHOTO ボタン(41)

10 ズームボタン(33)

11 ⏮ ⏭ ボタン(29、30)

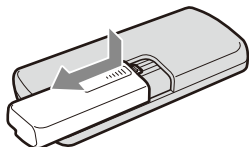
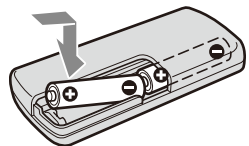
12 ビデオ操作ボタン(REW ボタン、PLAY ボタン、FF ボタン、◀II< ボタン、STOP ボタン、>II▶ ボタン、PAUSE ボタン、SLOW ボタン、×2 ボタン)(16、17)

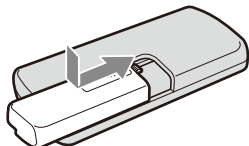
13 END SEARCH ボタン(29)

リモコンについてのご注意

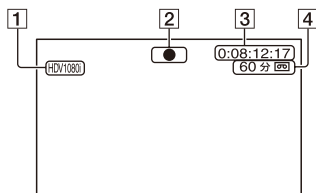
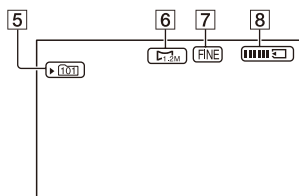
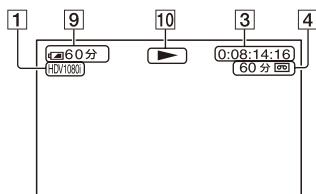
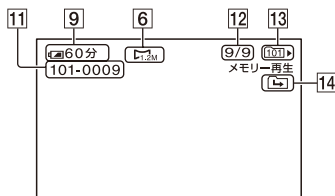
- 本体のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たらないようにしてください。リモコン操作ができないことがあります。
- 付属のリモコンで本機を操作しているときに、ほかのビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチをVTR2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

リモコンの電池を交換するには

① 電池カバーを押しながらずらす。

② 古い電池を取り出して、新しい電池を入れる。

③ 電池カバーを閉じる。「カチッ」と音がするまで差し込む。

各部のなまえ・索引

液晶画面の表示

( )内は参照ページ。
録画中の画面表示は録画されません。

動画を録画中

静止画を記録中

動画を再生中

静止画を再生中

1 録画フォーマット（HDV1080iまたはDV）（52）

録画フォーマットがDVのときは、録画モード（SPまたはLP）も表示される。

2 録画状態（[スタンバイ]/[●]（録画））

3 タイムコード（時:分:秒:フレーム）/テープカウンター（時:分:秒）

4 テープ残量の目安

5 記録先のフォルダ（59）

6 画像サイズ（58）

7 画質（FINE / STD）（58）

8 静止画記録中（41）

9 バッテリー残量の目安

10 テープ走行表示

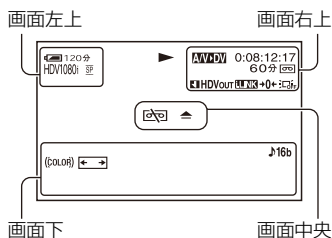
11 データファイル名

12 再生中の画像番号 / フォルダ内の合計枚数

13 再生フォルダ（59）

14 前後フォルダ表示

"メモリースティック デュオ"内に複数のフォルダがあるとき、フォルダ内の最初/最後の画像になると、 が表示されます。VOLUME/MEMORYボタンでフォルダー移動できます。

表示画面の説明

画面左上

表示	意味
HDV1080i DV	録画フォーマット(52)
SP LP	DV録画モード(52)*

画面右上

表示	意味
FINE STD	▣画質(58)
◪	インデックス信号(34)
HDVIN DVIN	HDV入力/DV入力(27)
HDVOUT DVOUT	HDV出力/DV出力(38)
i.LINK	i.LINK接続(19、35、25)
A/V▸DV	A/V→DV出力(39)
→0←	ゼロセットメモリー(28)
OFF	液晶画面OFF(31)

画面中央

表示	意味
⏏	警告(67)

画面下

表示	意味
♪16b	DV音声モード(57)*
(COLOR)	x.v.Color(76)
← → ▶ ◀	DVワイド表示(55)

* DV規格のときのみ設定できます。

ちょっと一言

- 表示内容や位置は目安であり、実際とは異なることがあります。

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

数字

商標について

- “Memory Stick”、“メモリースティック”、“MEMORY STICK ™”、“メモリースティック デュオ”、“MEMORY STICK DUO”、“メモリースティック PRO デュオ”、“MEMORY STICK PRO DUO”、“メモリースティック マイクロ”、“マジックゲート”、“MAGICGATE”、“MagicGate Memory Stick”、“マジックゲート メモリースティック”、“MagicGate Memory Stick Duo”、“マジックゲート メモリースティック デュオ”はソニー株式会社の商標です。
- HDVおよびHDVロゴは、ソニー株式会社と日本ビクター株式会社の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
- InfoLITHIUM(インフォリチウム)はソニー株式会社の商標です。
- “x.v.Color”はソニー株式会社の商標です。
- i.LINK、i はソニー株式会社の商標です。
- Mini DV Digital Video Cassette は商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Media、Windows VistaはMicrosoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSはApple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。

その他の各社名および各商品名は各社の登録商標または商標です。なお、本文中ではTM、®マークは明記していません。

ライセンスに関する注意

個人的使用以外の目的で、MPEG-2規格に合致した本製品をパッケージメディア向けビデオ情報をエンコードするために使用する場合、MPEG-2 PATENT PORTFOLIOの特許に関するライセンスを取得する必要があります。尚、当該ライセンスは、MPEG LA. L.L.C.,(住所:250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206)より取得可能です。

■ 製品についてのサポートのご案内

ホームページで調べる

製品の最新サポート情報
(製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法など)
http://www.sony.co.jp/cam/support/

製品ホームページ
http://www.sony.co.jp/cam
製品の最新情報、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。

メモリースティック対応表
http://www.sony.co.jp/mstaiou
使用可能な"メモリースティック"を確認することができます。

電話で問い合わせる(ソニーの相談窓口)

●使い方相談窓口
フリーダイヤル 0120-333-020
携帯・PHS・一部のIP電話 0466-31-2511
上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「400」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

●修理相談窓口
フリーダイヤル 0120-222-330
携帯・PHS・一部のIP電話 0466-31-2531
上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「400」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。
ホームページ　http://www.sony.co.jp/di-repair/
FAX(共通):0120-333-389
受付時間:月～金 9:00 ～ 20:00　土・日・祝日 9:00 ～ 17:00

■ カスタマー登録のご案内

カスタマー登録していただくと、安心、便利な各種サポートが受けられます。
詳しくは、同梱のチラシ「カスタマー登録のご案内」もしくはご登録WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/dpp-regi/

登録後は登録者専用お問い合わせ窓口をご利用いただけます。
詳しくは下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cam/contact/

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1　　http://www.sony.co.jp/

この説明書は古紙70%以上の再生紙とVOC(揮発性有機化合物)ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

3217209020